



シルバーだより

No. 298

平成 27 年 4 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

平成 27 年度の出発にあたって ーチャンスを生かしてチャレンジしようー

理事長 岡田芳子

3 月 18 日(水)、平成 26 年度の閉講・卒業式が挙行されました。

卒業生 62 名、奨励賞受賞者(10 年間学び続けられた学生)は 35 名でした。そして、長い間シルバー大学に功労のありました方々に感謝状を贈呈致しました。パステル・絵の具画教室の藤島久子先生、常任理事の兼杉つぎ子さん、佐藤恒子さん、山本菊枝さん、鈴木菊枝さんの 5 名です。ありがとうございました。

平成 27 年度が始まりました。今年度の受講生は、4 月 1 日現在 850 名で、そのうち新入生が 105 名です。シルバー大学は学びにチャレンジする場です。荒川区に在住している方、または、かつて勤務していたことのある 60 歳以上の方ならどなたでも入学できる学校なのです。入学試験はありません。

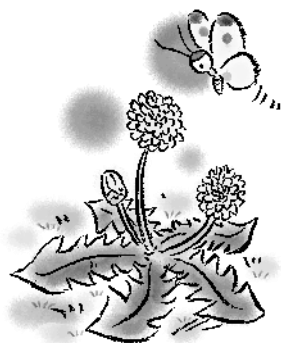
何年でも学び続けたいと思えば、生涯現役で学び続けられます。そのことは、学生の皆さんは知っていますが、町の中では「へえ、そんな学校あるの?」とおっしゃる方もいると思います。

こんなことを耳にしましたら、まず見学を勧めて下さい。そして、学園祭や学芸会のことを話して下さい。シルバー大学は 1 年間単位です。翌年は新たにまた申し込みます。5 年間学び続けると卒業証書を発行します。同じ教室で学ぶとしても毎年申し込みをします。

人は何歳になっても新しいことにチャレンジすることによって脳を活性化させます。シルバー大学に通ってくることは足を鍛えることになります。何より大勢の人と人との触れ合いがあります。人は、人の中に居て元気が出ます。

850 名の皆さんがチャレンジする今年、どんな目標をたてましたか?と何人かに伺ってみました。★自然体で今日学習に参加できたことに感謝する★今日何人と会話が出来たか、次回は一人プラスする★来年はもう一教科プラスする★学園祭に作品を出す★役員を引き受ける 等々。

チャレンジ精神を持って、今年も良き一日一日を過ごしてまいりましょう。



《硬筆教室での学び》

硬筆教室・自分史教室講師 野口 和歌子

心を込めて書いた文字には、人の心を動かす愛の力があると思っています。
硬筆教室では、毎回、学生の皆さんが一字一字丁寧に心を込めて、今自分に書ける最高に美しい文字を書いています。ですから、一人一人が書いたお名前だけ拝見しても、心が洗われ嬉しくなるのですが、ただ文字を美しく書くだけでなく、出来る限り「美しい言葉」を書いて頂くように努めています。

○初めに言葉がおり、言葉は神とともにおり、言葉は神であった（聖書）

○身にも、言葉にも、心にも、悪い事を為さぬ人をバラモンと呼ぶ

（仏陀のことば）

とありますように、キリスト教も仏教も言葉を最高位に位置付けています。

名作・名言・名曲(童謡・唱歌も含む)の歌詞等、心の糧となる美しい言葉を探し、それを書いてもらえるよう努めています。

自分自身で創られた詩や名言を書く方もいらっしゃいます。

また、歌を歌うことは健康に良いので、歌詞であれば書く前に、皆さんと一緒に歌います。大きな声を出すことも健康に良いので、名作は皆さんと大きな声で読み、それから心を込めて書いています。皆さんとても上手で素晴らしい文字を書いています。講師である私が、一番練習が必要なのですが、「生涯学習・一生学び」ということでお許し頂いています。

27年度からは、硬筆教室に加えて、本大学の名誉学長原田治子先生の「自分史教室」の講師も担当することになりました。

「人は一人の人生しか生きられない。でも、この教室ではたくさんの人生に出会える。人は皆、人生の中でたくさんのおかげがあって今日という日がある。自分さえよければいいのではない。自分史教室は、自分の人生を振り返り、これからの人生の出口までをどう生きるか、考える場である」

原田名誉学長のこの教えに深い感銘を覚えました。この教えを受け継いで、頑張って学びたいと思っています。どうか宜しくお願い申し上げます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

フラダンス教室 発表のお知らせ



会場：文京シビックセンター 大ホール

日時：4月11日（土） 12：35分出演

骨髄バンクのステージに参加します。

皆さん、ぜひご覧くださいね！

《奨励賞をいただいて》

桜の花の蕾がふっくらし始め、梅の花の香り漂う中、シルバー大学の卒業式を迎えた日、玄関を出ようとした私に主人が「おめでとう。いってらっしゃい」と言ってくれました。少し照れくさかったです。

会場内は活気にあふれ、お忙しい中参席下さった講師の先生方、役員の方々、テキパキ動く先輩方を目にして謝辞を読む大役を仰せつかったことを後悔しました。

十年の奨励賞をいただけるほど精進も努力もせず今日に至ったことを恥ずかしく思いましたが、式典が進むにつれ、岡田理事長、望月学長のお話を賜り心が軽くなりました。シルバー大学のモットーである「心、脳、体、友」。永く続けることに意味があるということ。一緒に入学した友人と健康に元気で参加することが出来たこと。そのことが一番だと思いました。

「何度も花が咲くように」楽しく過ごし、心豊かに生きること。

「ほめ言葉はくじらも躍らせる」と聞いたことがあります、賞をいただいてとても嬉しかったです。

今年度は、フラダンス教室にも入りました。楽しみです。夢はハワイに行ってフラダンスを踊ること、なんてネ。「本当は足腰を強くすること」。

関係者の皆様、ありがとうございました。感謝！

東尾久地区 36 班 和田 マサ子



《答辞を読んで》

私が、荒川シルバー大学に入学して早三年が過ぎし今日この頃です。諸先生方をはじめ先輩、友人との出会いの中で会話やお茶会等をして、充実した日々を送らせて頂きました。

そして、いよいよ卒業間近になった或る日の事、先輩よりお電話を頂き、突然の答辞のご指名に大変驚きました。余りにも課題が大きいため、責任の重さにお受けできないと固辞させて頂きましたが、再三再四のご指名で甚だ恐縮ではありますが、お受けさせて頂きました。

お受けするに当り、当日の欠席や声に支障のない様に万全な体調管理に努めました。そして、練習に入ってから冷静に心を込めて読む事が出来ました。

しかし、いざ本番では頭の中が真っ白になり、無我夢中で終わっていました。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

西尾久地区 44 班 高田 敏江

4 月 の 行 事 予 定



14 日 (火)		平成 27 年度 開 講 ・入 学 式	
一部	1. 開式のことば		1. 校歌斉唱
	1. 敬礼		1. 閉式のことば
	1. 理事長挨拶		1. 敬礼
	1. 学長式辞		
	1. 来賓祝辞・紹介	二部	1. 講師の紹介・挨拶
	1. 新受講生誓いの言葉		1. 班編成と役員紹介
会場：ムーブ町屋 3 階 ムーブ劇場		開式：午後 2 時	

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 〈3 月〉 ◆◆◆◆◆

- | | | | |
|------|------------------------------|------|----------------------------------|
| 3 日 | 役員会(募集申込み状況、
閉講・卒業式について他) | 18 日 | 平成 26 年度閉講・卒業式
第 29 回卒業生 62 名 |
| 4 日 | サハール荒川卒業式打合せ | | 第 22 回奨励賞受賞者 35 名 |
| 14 日 | 国旗・校旗・徽章・式次第
横断幕準備確認 | 23 日 | 27 年度「学校案内」印刷 |
| | | 24 日 | 入学式打ち合わせ(ムーブ町屋) |
| 16 日 | 卒業証書・奨励賞、式出欠確
認(地区班) | 25 日 | 広報委員会 |
| | | 27 日 | 講師会 |
| | | 30 日 | シルバーだより 298 号作成 |

※ 事務局だより ※

- ① 役員会：4 月 8 日(水)の配付書類・・・「学校案内」(教室 1 回目の持ち物プリント含む)・「開講・入学式のご案内」(新入生の方のみ)・「ファイル」・「保存袋」・「シルバーだより 4 月号」 ※「規約・名簿」は 5 月配付

- ② 開講・入学式：4 月 14 日(火)の持ち物

◆全員＝「学校案内」・・・式典・講義時には年間を通して必携・校歌斉唱に要す

◆新入生＝「学校案内」の他に「開講・入学式のご案内」・・・ハガキ大・桜色

受講生の皆様へ：大切なお知らせは毎月この誌面に掲載致します。お見逃しなく！

(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691

(ホームページアドレス) <http://www.arakawa-silver.com/> 室長 田原



シルバーだより

No. 299

平成 27 年 5 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— 平成 27 年度開講にあたって —

学 長 望月 公子

クリーム色に見えた樺のこずえが日一日と緑を濃くしてきました。

去る 4 月 14 日、第 32 回荒川シルバー大学の開講・入学式が西川区長様をはじめ多くのご来賓をお迎えして挙行されました。

今年度は、新入生 110 名を含め 30 教科、延べ 1400 名規模で授業が始まりました。文科系・家政科系・美術系・体育科系・情報科系・音楽科系など、大雑把にまとめてみると総合大学のような規模です。

これだけ多くの講座があるということは、学生の皆さんが如何に多様な学習意欲を持って学び続けてきたか、という証であります。



100 歳の日本女性が 1500 メートルを泳いだことは記憶に新しいことですが、我がシルバー大学には 90 歳以上の学生が何人も元気に学んでいます。1 教科だけではなく質の異なる 2～3 教科を選択している人も多くいます。

新しいことを学び、さらに深め、そして身に着けたものを広げる、これは生きる醍醐味につながる高尚な喜びです。これを得るには、健康であり、励まし合える仲間が居り、良き指導者に恵まれてこそ可能になるものです。この出会いの数だけ学びがあるのが、荒川シルバー大学だと私は自負しております。

1 年間を通して、授業数 19 回、入学式・卒業式、合同講義 3 回（昨年度は、区長講演・真打による落語・海外で活躍の声楽家による音楽会）、学園祭・学芸会、研修旅行などの行事が営まれています。これらは、学生として出席の権利と義務があるものですから、できるだけ欠席をしないで済むように、スケジュールを調整して頂きたいと思います。

前年度は、荒川区が疎開でお世話になった姉妹都市・福島市との交流会、北京大学教授たちとの学芸会での交流、大学病院からの協力依頼などがありました。さらに、今年度は、5 月中に台湾の留学生が研修のため幾つかの教室訪問を予定しています。

現代は地球規模で高齢化が進むと予測できる時代ですから、今後、こうした

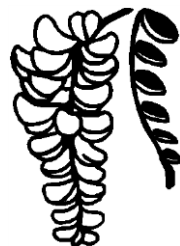
関係の方々が勉強のため皆さんに意見を求めてくる機会が多くなるだろうと予測しますが、遠慮せず積極的に自信をもって説明や会話を楽しんで対応して頂けたら有難いと思います。

《平成 27 年度開講式並びに入学式》

平成 27 年 4 月 14 日(火) 開講・入学式が、あいにく一日中雨模様ではありましたが無事に執り行われました。今年は例年のサンパール大ホールに代わってムーブ町屋のホールになりましたので、入場者も制限されましたが、足元の悪い中ホールは満席になり有り難い事でした。特筆すべきは今年の新入生 110 名中 88 名の参加をみた事です。例年にない事で将来が楽しみです。

第一部では、理事長、学長の挨拶のあと、区長・区議会議員・荒川警察署長・荒高連理事長より祝辞を賜り、そして区の教育部長他、多くのご来賓の方々に出席いただきました。

西川太一郎荒川区長の祝辞の中で、今日(14 日)午前中に、米国駐日大使キャロライン・ケネディー氏（あの有名な、ジョン・F・ケネディー大統領の娘さん）が、第一日暮里小学校の授業を参観された事が報告されました。これは全国で初めてで、荒川区が早くから小学校低学年から英語の授業を取り入れている成果を見にこられたようで、荒川区にとって誇りであると話されました。



尚、「シルバーだより」6 月号が 300 号を迎えることになり、お祝いの言葉をいただきました。

区議会議員の祝辞は、全国どの自治体でも今年、介護保険料が値上がりする中、努力をして唯一多少ではありますが、値下げすることが出来た報告と、警察署長のお話では、世間でこれだけ騒がれている「オレオレ詐欺」「還付金詐欺」が未だに無くならず、注意する事と、交通事故が子供と老人に多い事から横断歩道でも左右の確認を、とのお話でした。

新入生を代表して、西日暮里 10 班、白澤健三(はくざわけんぞう)さんの「誓いの言葉」が学長の前で述べられ、校歌を全員で斉唱して第一部は終了しました。

第二部では、学長による新教室を含む 37 教室の講師の紹介があり、理事長からは、新役員と担当役員・地区長の紹介があり、その後地区長による各班長紹介で、式は滞ることなく全て終了しました。

この式典を施行するにあたり、会場準備・来賓接待・受付・終了後の片付け等、色々な役をお願いした役員の皆様にはご苦労をおかけしました。

お礼を申し上げます。

(進行役担当・副理事長 宮澤 健一)

開講式にご出席頂いたご来賓の方々 (敬称略)

東京都特別区長会会長・荒川区長 西川太一郎、荒川区議会議長 北条貞治
荒川区教育部長 阿部忠資、警視庁荒川警察署長 金子勇二
荒川区高年者クラブ連合会理事長 斉賀靖佳、荒川区福祉部長 谷嶋弘
地域文化スポーツ部長 池田洋子、福祉部高齢者福祉課長 谷井千絵
地域文化スポーツ部生涯学習課長 北村美紀子、荒川区社会福祉協議会
会長 三嶋重信、荒川区社会福祉協議会専務理事事務局長 藤田満幸
荒川区芸術文化振興財団理事長 小池寛治、銀座プラネットサービス 満武誠

《さよならは言わない》

前自分史教室講師・名誉学長 原田治子

にんげんは／喜怒哀楽の物語の中で／生きている
さくら さくら／今年のさくらは／別れを惜しむさくら
さくら さくら／来年のさくらは／思い出を紡ぐさくら
さくら さくら／その次のさくらは／あの人々を懐しむさくら
さくら さくら／心の絆で結ばれた／私の大切な家族
さくら さくら／その花びらにのせて／幸せをいっぱい運んでやってね
さくら さくら／みんなきっと／人生の物語りの続きを綴るでしょう
さくら さくら／自分史二十三歳の春／さよならは言いません

みなさまとの出会いはとても幸せでした。
心の支えでした。ありがとうございます。

《感謝状をいただいて》

去る3月18日の閉講式に、思いがけなく感謝状・花束・記念品を頂戴し深くお礼を申し上げます。私が感謝状に相応しいお手伝いが出来たかと恐縮しております。いただいた沢山のお花は仏壇に供え、お墓にも持参し、亡き夫に報告し一緒に感謝しました。

シルバー大学に入学して30年、水墨画、華道、自分史、気功、健康体操などの教室で学びました。今年は新たに、頭の体操に入れていただき楽しみにしています。多くの事を教えていただき、沢山の方々と出会い、楽しく充実した30年間でした。これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。

シルバー大学が高齢者の為の学びの場として、仲間づくりの場として末永く続きますように祈っています。 (前常任委員 兼杉 つぎ子)

平成 27 年が始まって 2 回目の授業の時に、先生が紙を一枚ずつ生徒に配り、黒板に「平成 27 年の抱負」と書いて①一年の計 ②好きな言葉 ③文字に対する思い これを書いて提出するようにと言われました。

突然の事でしたし、それに終了時間迄 30 分しかありません。生徒は皆異口同音に、「ああ、時間がない。何を書こう。どうしよう」とあせりましたが、何とか時間までに提出しました。

そして、次の教室の日、何枚か綴られたプリントが全員に配布されました。それは、前回提出した「27 年の抱負」を先生がアイウエオ順にまとめてプリントしたものでした。欠席者がいたので提出者は 40 名でした。これを全部整理してプリントした先生のご苦勞に感謝します。

先ず皆さんの提出したものを読んで本当に心打たれました。そして、嬉しく思いました。皆さんの考えている事が一緒だったのです。①一年の計については、殆どの方が、健康第一。②好きな言葉は、笑顔、思いやり、有難う。③文字に対する思いは、もっと上手になりたい。美しい字が書けるよう努力する。行書で美しい手紙が書けるようになりたい。

同じ志を持つ者同志、今年もお互いに助け合って仲良く楽しく勉強に励みたいと思いました。
(硬筆教室 佐藤 ひで)

平成 27 年 1 月 30 日学芸会において頂いた荒川区教育委員会からのお礼状です。

謹啓

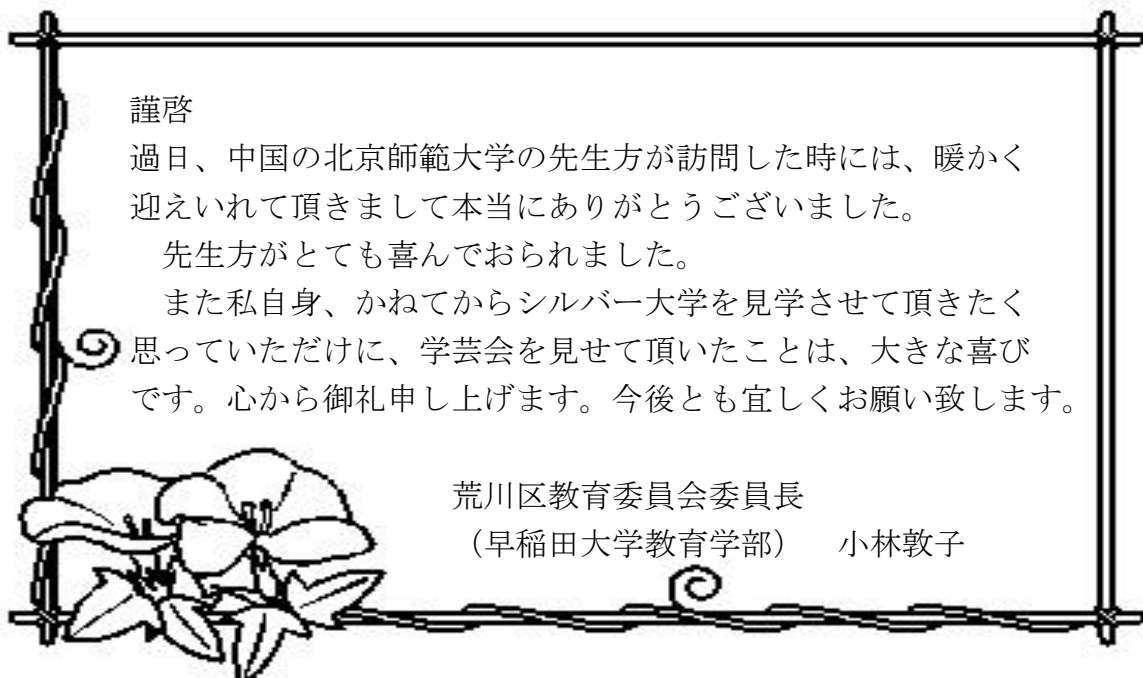
過日、中国の北京師範大学の先生方が訪問した時には、暖かく迎え入れて頂きまして本当にありがとうございました。

先生方がとても喜んでおられました。

また私自身、かねてからシルバー大学を見学させて頂きたく思っていただけに、学芸会を見せて頂いたことは、大きな喜びです。心から御礼申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

荒川区教育委員会委員長

(早稲田大学教育学部) 小林敦子



《教室紹介 — 俳句教室》

ここに平成 26 年度の皆さんの作品をご紹介します。順番は季節順です。

生かされて生きる喜び年新た	幸子
乙女等の笑ひ弾ける初みくじ	勝子
咲き満ちて庭華やかにさくら草	美津江
春うらら一年語る絆旅	百合子
菩提樹の種子旅立ちて歌の地へ	邦子
故郷は何処に在りやかたつむり	悦
あげは蝶遠慮しがちに品定め	恒子
夏野行く我を見送る地藏尊	信
いかずちのスカイツリーを突き刺せり	源一
八月や兄の遺せし英和辞書	健次
みそ汁のオクラ星形踊り出す	佳子
七輪の秋刀魚かぐわし猫集ひ	麗子
現世に返せぬ恩や墓洗ふ	京
曼珠沙華山の裾野の晴着かな	まさよ
彼岸花我が振り直すまっすぐに	速子
大銀杏黄金散りばめ舞踊る	芽衣
横文字の墓標に供花の冬薔薇	朋子
ネット張り凍蜘蛛じっと獲物待つ	霜月
逆光の影足早に師走かな	純子



平成 26 年度 奨励賞受賞者

3 月 18 日に行われました平成 26 年度閉講式では、次の 35 名の方々に、10 年間の学習に対して奨励賞が授与されました（敬称略）

神田清子	萩原博子	丸山文子	松本弘子	菅野陽子
宮澤健一	小澤知恵子	小林サナエ	増山美代子	福島健仁
堀江和子	石井みよ子	宇田恭子	小野口節子	田口悦子
保科邦子	伊ヶ崎元子	坂本隆一	山本きく江	後藤信子
新澤艶子	大津伸江	上部博子	浅香正紀	下木美鈴
和田マサ子	木村すみ子	福永優子	石賀征子	富永桂子
橋本佳子	桐山サキ子	志村仁子	石山つめよ	中沢玉枝

《 お 願 い 》

「シルバーだより」に対するご希望、ご感想、ご意見等を募集しています。随時受け付けます。お待ちしております。(広報部)

5 月 の 行 事 予 定

期 日	行 事	講 師
22 (金)	平成 27 年度 第一回合同講義 語り浪曲「浪花節繁盛記」他	天中軒 轟 (浪曲師) 国本晴美 (浪曲)、伊丹明 (曲師)
会場 : ムーブ町屋 三階 時間 : 午後 2 時より (無料)		

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (4 月) ◆◆◆◆◆

- | | |
|--|--|
| 8 日 役員会 学校案内・開講式
のご案内他 配付
14 日 平成 27 年度開講・入学式
在籍総数 895 名、
内新入生 110 名 | 22 日 広報委員会
23 日 会計監査
23 日 5 月合同講義打合せ (ムーブ町屋)
23 日 規約・名簿作成 印刷へ
30 日 シルバーだより 299 号作成 |
|--|--|

※事務局だより※

1. 講義及び講座開始の件：日時・会場は学校案内書類・日程表または学校の掲示板をよく見て確認して下さい。又教室使用後の掃除、戸締りを確実にを行い、教室で出たゴミは責任を持って各自お持ち帰りください。

2. 教室使用手続き時間の件：生涯学習センター窓口へ

【使用承認書】提出時間は、午前教室は 9 時 30 分より、午後教室は 12 時 20 分より。又終了後の鍵他の返納は午前教室は 12 時まで、午後教室は 3 時までにと時間厳守でお願い致します。速やかにお願ひします。

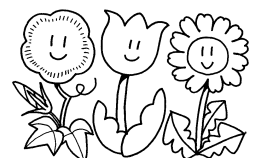
※ 荒川シルバー大学【事務所】開所時間のご案内

(月～金曜日) 午前 9 時 30 分～午後 4 時

(土日祝祭日は休み)

(事務所) TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>



室長：田原



シルバーだより

(創刊 300 号記念号)

No. 300

平成 27 年 6 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— シルバーだより 300 号に思う —

名誉学長 原田 治子

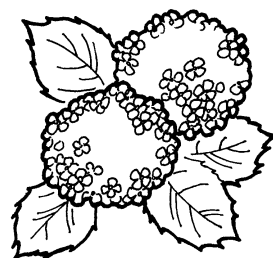
六畳の狭い部屋に、一畳ほどの大きな机がどすんと構えています。一日のうちで最も落ちつくのがこの机に向かった時。誰にも障られない私ひとりの世界になれるから。そして、動きが鈍くなった自分に言いきかせることは— 午後になれば午後にしかみられない風景がある。人生の午後にゆっくり歩いて心あたたまる人間風景にたくさん出会おう。自分にできなくなったことを嘆かず、自分にできることを探しながら— と。

この 6 月号は記念すべき 300 号です。

昭和 59 年 (1984 年) 4 月 16 日、入学生 148 名で第一回開講式。およそ 1 年後の昭和 60 年 5 月 15 日にシルバーだより第 1 号が発行されました。

「私たちの誇り」と題して、水越清次初代理事長が巻頭言を書いています。社会に信頼される高齢者であれ

と呼びかけている手書きの文字からは、最後 (平成 17 年 3 月 31 日逝去) まで創設者の矜持を保ち続けた、自負心と責任感が偲ばれます。



第 2 号 昭和 60 年 7 月 15 日発行。第 3 号 昭和 60 年 10 月 1 日発行。

秋山照子二代理事長の文字が見られます。内面にある優しさがあふれている懐しい文字です。第三日暮里小学校長退職が昭和 61 年 3 月 31 日ですから、退職前からシルバーだよりに関わっていたことがうかがわれます。平成元年学長に就任以降も、水越絹代さん、藤林誠一さんとの懸命な努力が実って、平成 3 年度から「毎月号」として発行されるようになったのです。平成 17 年 4 月 1 日理事長に就任されてからも (平成 24 年 2 月 23 日逝去) 常々口にしていたことは「シルバーだよりは正しい情報を提供し、学生の心を繋ぐもの」でした。

先人、木を植えれば後人涼しの如く、先人が丹誠こめて植え育てたシルバーだよりの苗を、私たちは 300 本の年輪を刻む大木に育ててきました。年輪には、成長に関わってこられた方々が与えた栄養や清らかな水が、しっかりと貯えられています。感謝、感謝。長きにわたり広報部として、そして平成 19 年から 26 年まで、広報部長として活躍した佐藤恒子さん、ありがとうございました。

現在の在籍数はおおよそ 900 名。この学生が一堂に会して、確かな意思の疎通をはかることは困難です。それをシルバーだよりが補っているのです。

「シルバーだよりは正しい情報を提供し、学生の心を繋ぐもの」 秋山照子二代理事長が遺したことばが、300 号発行にあたり、一層深く心に刻まれます。

役員はすべてボランティアです。私たち編集委員も（高山・井口・水越・宮澤・原田）ボランティアでシルバーだよりを作っています。毎月数日間、額を集めて企画・原稿依頼・原稿集め・編集・推敲・校正…。体や神経も疲れます。しかし、多くの学生が生き甲斐とする、楽しい学び舎を支えている大切な役割を担っていると思うと、「利己利他」のわが行為に少しばかり豊かな気持ちになります。何よりも高価な報酬は、在校生全員がシルバーだよりをしっかりと読んでくれることです。

どんなに学生数が増えようと、シルバーだよりが号数を重ねようと、量の増大だけでは成長したことになりません。質の向上があつてこそ、誇れるわがシルバー大学になるのでしょうか。では質の向上とはどんなことか。知識・技能・技術を深め高めることだけを目指すではありません。学校の運営に関心を持ち、建設的な意見を寄せること。自分さえよければではなく、共に学ぶ人たちのいたみや悲しみに寄り添い、助け合うこと。そして、みんなの力で「心あたたまる人間風景そのもの」の学校を育てていくことです。

人生の午後だからこそ、若い時には素通りしてきたものも見えたり感じたりします。どんなに些細なことでもいい、一日の終わりに「ああ今日もいいことしたな」と思える生き方をしたいですね。愛の反対は憎しみではなく無関心です。あなたもシルバーだよりの担い手です。

「シルバーだより」は、平成 27 年 6 月で 300 号を迎えました。

「荒川シルバー大学」は、昭和 59 年開講、「シルバーだより」は翌昭和 60 年 5 月 15 日に創刊されました。それから 30 年休みなく発行されております。

創刊号は初代理事長水越清次氏の手作りでした。今回、創刊号を復刻して掲載いたしましたので、ご覧下さい。

創刊から現在に至るまで、記事の執筆にご協力いただいた方、編集に関わってくださった方、愛読してくださった方、すべての方に感謝いたします。

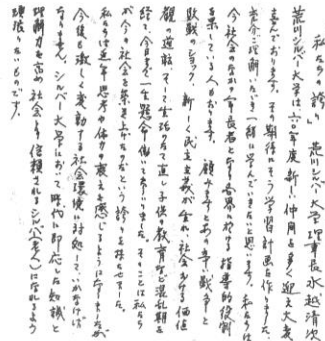
これからも学生の皆様に愛読していただける「シルバーだより」を発行できますように事務局・広報一同務めてまいります。

「シルバーだより」へのご意見、ご希望をお寄せくださいますよう、お待ちしております。

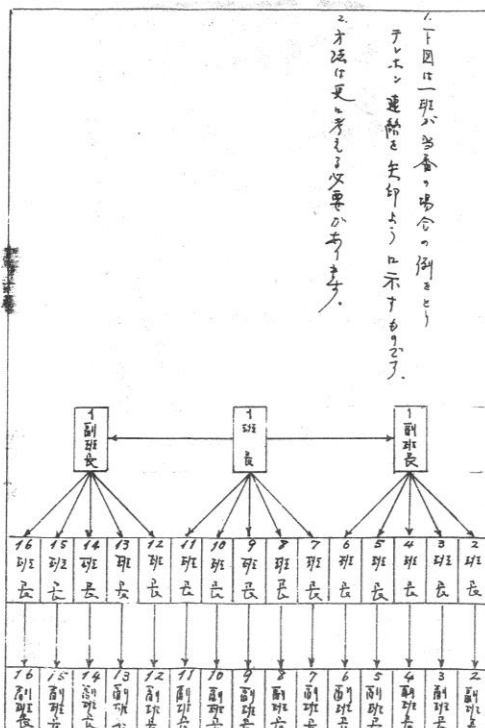
（ 広報部長 高山 順子 ）



1884

[illegible]

班長会 テレビホンマニユニケーション ルート



《 300 号記念おめでとうございます 》

気功教室講師 原 幸代

「シルバーだより」と共に歩んで来た大学の歴史の中で私は、様々な出会い、別れ、感動、喜び等多くを経験してきました。

私の気功教室も今年 11 年目を迎えます。11 年前水越先生から講師依頼のお話があった時、半年後か 1 年後に次の講師とバトンタッチしましょう、という条件でお引き受けしました。気功の団体の事務局長と気功指導員を養成するのが私の仕事ですから、外に出ることはなかったのです。

けれども、1 年のつもりが 2 年、3 年経った頃、10 年は務めさせていただきますと皆さんにお約束しました。その間、多くのシルバー大学の人生の先輩方から沢山のことを学ばせて頂き、心より感謝申し上げます。つたない私が 10 年以上も続けられたのは、主に次の三つの理由が挙げられると思います。

- ① シルバー大学の学生は 60 歳以上にもかかわらず、いやそれだからこそ前向きで、何かを学びたい気持ちで満ち溢れている。
- ② 健康の大切さをどの世代よりも痛感していて、気功のレッスンに熱心であること。
- ③ 私は沖縄出身ですが、荒川の皆さんは裏表のない



おおらかなお人柄の人が多く、沖縄の気風と同じで、気功教室の皆さんと接していると、まるで沖縄に帰ったような楽しい気持ちになることです。

もっともっと沢山ありますが、これからも楽しく元気に教室を続けて少しでも皆さんのお役に立てるようにと願っております。

「シルバーだより」と共に歩み続ける、プラチナの輝きを放つシルバー大学の発展を心から祈念いたしております。

3 ページは「シルバーだより 第 1 号」の縮小版です。
実物大のたよりをご覧になりたい方は、お気軽に事務室
にお立ち寄り下さい。 (広報部)

《 歌は楽しい！ 》

歌声クラブ教室助手 高橋 建司

4年目を迎えた教室が5月12日にスタートした。ピアノ担当の本田先生の選んだ第1曲目は「鯉のぼり」♪いらかの波と雲の波 重なる波の中空を…みんな昔の子供の頃を思い出して声を出す。今年度の新受講生19名にも414ページもある唱歌・童謡や外国の歌もある歌集が初日に間に合った。歌の好きな人達が86名も集まってきた。

土曜日の音楽教室と重複受講者もあれば、区内の合唱団に入って歌っている人もいる。2曲目は「若葉」、昭和17年の戦時中に作られた歌であるが、初夏のみずみずしい新緑の風景の平和な穏やかな歌詞である。「春の小川」「せいくらべ」と先生のピアノに合わせて歌は続いた。後半はいつものように“流行歌”も歌う。今回は“潮来笠” “東京ラブソディー” “青い山脈”、何やら童謡、唱歌より声が出ているのはどうしたことだろうか？以前教室のアンケートの中で、一部の人は、あまり唱歌、童謡は歌えないと回答する人があったのは意外だった。

昨春、父親の転勤で海外の学校に転校した小5の孫娘から、小学校6年間で歌う「歌はともだち」という歌集をもらった。176ページの小さな歌集を見ると、あまりにも我々の時代と曲名が違うのに驚いた。

赤とんぼ、里の秋、ふるさと…など、我々が歌った曲のあるのは数える程しかなく、春の小川、浜辺の歌、埴生の宿、朧月夜…など多くの歌が削除されているのにびっくりした。

親が教えない限り上記の歌は子供達から消えていく運命なのだろうか。歌い継がれて欲しい曲がまだまだ沢山あるのだが…。

歌声クラブはぶっつけ本番、次々と歌ってゆくが、ラジオ時代に育ち、今よりも娯楽の少ない時代に育った者の集まり、多くの人達はよく歌を知っている。重複した歌もあるが、教室が始まって3年間で過ぎ、数えれば700曲くらい歌ったことになる。

しかし、300号になる「シルバーだより」は、単純計算でも30年前に創刊されている訳だから、それに携わった方々は大変な努力を積まれたことだろう。創刊当時のものがあれば、ぜひ読んでみたいものである。



6 月 の 行 事 予 定

期 日	行 事 内 容	講 師
19 日 (金)	合 同 講 義 「地方自治体から見た荒川区の明日」	荒川区長 西川太一郎様
会場：ムーブ町屋 三階 ムーブホール 時間：午後 2 時より		

◆◆◆ 学園日誌(5月) ◆◆◆

13日	常任理事会・役員会	18日	講義打ち合わせ(ムーブ町屋)
	開講式の件/規約・名簿配付他	22日	第一回講義・天中軒轟氏他3名
14日	台湾より学校訪問		「語り浪曲の世界」
	黄淑珍様・武沢華様	20日	広報委員会
	絵手紙・輪踊り民舞教室	26日	広報委員会
	の授業参観	28日	シルバーだより300号作成

※事務局だより※

1. 注意事項：冷房のスイッチ・戸締り・忘れ物・ごみのチェックをお願いします。
2. 役員一覧について：7月の役員会後に、各地域の班長さんより会員全員の方へ配付されます。「規約・名簿」の8頁に貼って下さい。
3. 7月の常任委員会：7/1(水)午前9時半～

役員会：7/1(水)午前10時半～

水越幾子様を悼む



水越幾子様が去る4月23日逝去なさいました。荒川シルバー大学初代理事長・故水越清次様の奥様として、創設のご苦勞を共にされた方でした。また32年間にわたり在籍し、本誌をご愛読いただきました。在籍する第一期生としても最後のお一人でいらっしゃいました。荒川区の高齢者が素晴らしく元気な訳は？と問われたら「荒川シルバー大学があるから」と私は答えます。語り継がれる方が黄泉の国に旅立たれました。合掌

TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

室長・田原



シルバーだより

No. 301

平成 27 年 7 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— さあ、前を向いて —

副学長 木村 國子

近頃の異常気象に驚く。なんと、5月31日には東京都心で最高気温 32.2 度を記録したという。7月の気温はどうなることだろう…。

世界的にもインドの熱波による多数の死亡者、ネパールの大地震による大きな被害等、異常気象のもたらす結果が心配される。私達の出来る事はなんだろう？日常生活の小さなことからその原因となることを考えて、歯止めをかける努力をしよう。

暗い話の多い中で、最近、前向きになれる話を聞く機会があって、気持ちが明るくなった。シルバー大学合同講義での天中軒轟さんの話。演題は、「語り浪曲の世界、浪花節繁盛記」だったが、その朝、語り浪曲師にとって大切な「歯」が、抜けてしまったという。それをものともせず、笑いに変え、少々息漏れのする声で演じ切ってしまった。その浪曲師根性の見事さ！



師匠の国本晴美さんも顎の外科手術を受け、話しぶり状況の中で講演された。「三婆物語」をゆっくりと、感情豊かに、味わい深く語られ、私達を笑いと涙の世界へ導いてくれた。

お二人に共通していることは、困った状況でも落ち込まず、何事にもとらわれず、マイナスをプラスに変えようと努め、発想の転換を図ることではないだろうか。

更に、「どうして浪花節は廃れたと思うか？」と、観客に向かって聞く勇気、仕事に対する姿勢、思い入れはすごい！「時代に合わないから。説教臭いから。言葉が理解出来ないから」と反応があっても、それを受け止める度量の深さに学ぶことが多かった。

最後に、国本晴美さんが言った、「不幸なことばかりにとらわれず、三度のご飯が食べられる。寝るところがある。歩ける。話せる…。やりたいことをやる。生きているうちが花」という言葉に感銘を受けた。

その通り！さあ、私達も前を向いて、一步一步進もう。

《 第一回合同講義を聞いて 》

日本の話芸・絵手紙 B 教室講師 塚田 義介

今年度第一回目の合同講義は、浪曲をテーマにした「語り浪曲の世界」でした。もちろん日本の話芸教室の生徒にとっても嬉しい企画で、楽しみにしていました。

第一部の『浪花節繁盛記』は浪曲の歴史を語るとともに、自分史を浪曲で語る天中軒轟先生の浪曲にかける熱い思いがヒシヒシと感じられました。教養と蘊蓄とユーモアに溢れた【天中軒轟の世界】でした。

第二部は、いま現在の浪曲界を代表する若手とベテランの師弟共演でした。国本はる乃、19歳の若さ溢れる美声と堂々とした舞台度胸は観客の皆様の心をグッと捕えたことでしょう。浪曲は一声・二節・三啖呵と言います。天性の美声の持ち主はる乃さんは将来有望です。若いのに、セリフもしっかりしていて驚きました。トリの大師匠、国本晴美『三婆物語』は、何の変哲もない日常の世間話を淡々と描きながら、観客の心を物語の世界に引き込み、満足させてくれました。

つくづく芸の力の凄さ恐ろしさを感じました。そして、人々に明日を生きる力を与えること、明日も楽しく生きていこうと励ますことが、大衆芸能、大衆演芸の持つ底力だと感じました。

天中軒轟先生

国本はる乃さん

国本晴美さん

第一回合同講義

「語り浪曲」

提供：写真教室

投稿欄



天中軒轟さんは、若くして浪曲の世界に入り、四代目天中軒雲月の内弟子として修業を重ねて、東洋大学で印度哲学を学び、世界中を旅し、60カ国を超えたそうです。浪曲は義理と人情、涙の世界を根底に浪曲を語る台本を書き、舞台でご披露しているそうです。

国本はる乃さんは19歳とは思えない素晴らしい声でした。浪曲特有のうなりや節回しが難しく、稽古を重ねる腹式呼吸の発声では、学生時代にトランペットで鍛えた腹筋が役だったそうです。

国本晴美さんは、四代目東屋楽遊に入門しました。NHKの勉強会に顔を出すようになり、いつときは子育てと家業のために浪曲界から遠ざかりましたが、若い頃からお世話になった浪曲です。「浪曲は心の支えでした」現代風にアレンジして素晴らしい浪曲でした。感動しました。本当に有難うございました。

(町屋地区 35 班 布川 春江)

《 頭の体操教室で学んで 》

今年9年目になる頭の体操教室を、1年目から受講しています。色々なことをして楽しく脳を使っていますが、最近、物忘れが多くなったと感じています。でも、この教室にお世話にならないでいましたならば、更に多く忘れることだろうと思っています。

水越先生は、誰にでも簡単に覚えられるように、計算や漢字の読み書き、そしてインド式の算数など、工夫をなされて分かりやすく教えて下さいます。

「メルヘン・オン・パレード」や「がまの油」など少し長い文章も何度も繰り返して学習するうちに、暗記できるまでになりました。

皆様も私と同じ気持ちで楽しみながら授業を受けている様子がうかがえます。笑いで始まり、笑いで終わる、とても楽しい教室です。

(頭の体操教室代表 関 夏子)

《 隻眼の剣豪 》

水彩画教室講師 遠藤 みつひさ

水平線の彼方にかすかに見えていた煙、次に煙突が、やがて船の形が現れ、近づくにつれて大きくなっていく。遠くに見えた列車が駅に近づくにつれ大きくなり、発車すると次第に小さくなっていく。このような体験は誰でもあることでしょう。

私達は、生まれてからこの方、遠い・近いの感覚を無意識に感じ、何故とか不思議にも思わず生活してきました。では何故、遠い近いがわかるのでしょうか。絵を描くようになってから分かったことですが、私達は両目の視線が作る角度で遠近を判別しています。この理屈で作られた物に測距儀があります。

(今では音・電波・光の反射で距離を測れます)

色で遠近を表現する方法もありますが、またの機会にお話しします。

さて、絵画は、画用紙という縦と横(平面)の二次元の世界ですから、絵の中のどこを見ても両目の視線の角度は同じで、同じ距離になります。そこで絵に描いた物(縦横)に奥行きを加えて三次元の世界を作り出します。その結果、平面に描いた物が立体的に、又遠い近いが表現されます。前述した船や汽車のように同じ物は遠ざかるにつれ小さく描きます。(放射遠近法)

ところで、両目の視線が作る角度で遠近がわかることを前述しましたが、私が思うに剣豪として知られる柳生十兵衛や丹下左膳は、講談の中では隻眼で活躍しています。隻眼になった時点までの両眼の世界が脳の記憶に残っている間は、ある時までは何とかなるかも知れませんが、剣豪とはいえ隻眼では、剣先一寸が生

死を分ける世界を考えると、はてなと思うところがあります。

眼帯を着けた時、手を伸ばしても物に手が届かなかった経験がありますが、皆様如何でしょうか。

少々脱線しましたが、絵画を鑑賞される時、前述したことを考えながら眺めると新たな発見があるかも知れません。

《 台湾からの見学者来校 》

絵手紙 A 教室講師・理事長 岡田 芳子

5 月 14 日、絵手紙教室へ台湾から国立中正大学・博士生 黄 淑珍さんと、早稲田大学研究生(中国) 武 沢華さんが見学にいच्छやいました。高齢者が真剣に学ぶ様子を見学されました。

「一緒に描いてみませんか」と誘いますと、受講生の中に入り、隣に座った方の帽子を二人で描き始めました。教室に華が咲いたようでした。

途中で、輪踊り民舞教室へ行きました。皆さんに歓迎されて輪の中に入り、身ぶり手ぶり楽しげに踊り、心が通うひとときでした。高齢者が学ぶことを通して人と人との輪を広げ生きる力を高めている姿に感動されていました。

見学が終わり、シルバー大学について色々質問されました。年齢層、就学年数、教科、男女比等々。創立 30 周年記念誌は、まさに教科書でした。国際交流の一こまでした。

【 七夕に願いを込めて 】

— 自分史教室より —



人生限りなく、楽しい、嬉しい、
つらい、悲しい 色々
藤原 晃

足の痛みに負けず、
マラソンがしたい
篠沢 欣子

人生も残り少ない。
願い事はいっぱいある。やりたい
こと、行きたい所、観たいこと。
そのためには、健康でいたい
岩崎 芳民

祈 健康
井出 治雄

煩惱を断ち切り 前進

竹本けい子

日々を心おだやかに

送って行きたいです

山田 紀子

願わくば 朝寝のまゝに

逝きたしと

落合 静子

山頭火はふところに毒、私は語彙

を多くふところに入りたい

榎本 節子

いつ迄も元気な旅が

出来ますように

嶋戸由美子

今の幸福が

長く続きますように

早間 節子

坐骨神経の痛みが取れて、毎日

笑顔で暮らせますように

石井みよ子

主人の病が良くなり、二人で

ゆっくり旅行したいです

入山 勝子

私がほしい

雨宮マサ子

満九十歳に追いかけられている
今日。頭の中身・足腰が、人並
みについて行かれるか、私自身
の問題である

中野 俱子

健康にこれからも

過ごせますように

福井キミ子

笑顔で過ごせる日が一日も

多くありますように

石井 美晴

心をつなごう！

高齢化が益々進み、認知症の人は年々増加しており、日本では80歳の約4人に1人が認知症との統計調査が出ています。私達にとって認知症は決して他人事ではありません。

私達シルバー大学の学生は様々な事を学びたい、友達をつくりたいといった積極的な思いで入学した事と思います。それは素晴らしいことです。私達は同じ大学で学ぶ仲間として言葉をかけ合い、心をつないでその輪を大きく広げていきましょう。そして、認知症を出来るだけ遠ざけましょう。(広報部)

◆◆◆ 学 園 日 誌 (6月) ◆◆◆

3 日	常任理事会・役員会	〃	講師	区長西川太一郎様
	26 年度会計報告			地方自治体から見た荒川区の明日
	27 年度予算報告他講義	23 日	広報部	編集会議
8 日	講義打合せ (於ムーブ町屋)	24 日	高年者クラブ総会	
17 日	広報部 編集会議		(山口副事務局長出席)	
19 日	第二回合同講義(内容右行へ)	26 日	シルバーだより	301 号作成

※事務局だより※

1. 秋の研修旅行について：(錦秋の磐梯レークラインと岳温泉の旅)
期日 平成 27 年 10 月 28 日(水)～30 日(金) 宿泊先：あづま館
費用 36,800 円 ※パンフレット配付後、7 月より申込受付を始めます。
2. 講師会について : 7/24 (金) 午後 1 時～, 1 階 第 1 会議室
3. 常任委員会について : 7/ 1 (水)・7/29 (水) 午前 9 時半～,
シルバー事務所
役員会について : 7/ 1 (水)・7/29 (水) 午前 10 時半～
3 階 大会議室

※7/29 日は学園祭の打ち合わせを行います。よって展示教室の講師・各教室代表全員・地区役員全員の方のご出席をお願いします。
尚 8 月の常任委員会・役員会を 7/29 に実施するものと致します。

事 務 所 TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>



室長：田原



シルバーだより

No. 302

平成 27 年 8 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

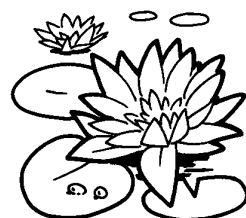
— 健康は食生活から —

相談役 自然と小さな旅教室講師 稲川君江

暑中御伺い申し上げます。一年中で一番暑い月を迎えました。夏休みです。ゆったりと過ごされて又元気で 9 月にお逢い致しましょう。

さて、私は数年前より急激に体力が低下しています。今年は年齢の大きな節目にもあたっています。何かあるとすぐに歳のせいにしてしまいます。が、あながち歳のせいだけでもないようです。

一昨年あたりからは目まいがひどくなりました。いつもの様に歳のせいだからと考えておりました。ふと考えてみると、高齢になってからというものなぜか肉料理を食べなくなりました。「そうだ肉を食べよう」と考えました。気付いたその日から連日肉料理を摂取。間もなく目まいは解消。その後できるだけ肉料理を食べる事にも努力をしています。



あれから半年以上経過、かつての目まいとはおさらばをする事が出来ました。「歳だから～」と安易に思いこみ過ぎていた事を反省しているところです。

私達は『食べる』という事を簡単に考え過ぎてはいないでしょうか。「元気で活動できる」という事は「自分が選んだ食材を食べる」ということ。この単純な行為が自分の健康な体を 100%維持しているという事なのです。そして、自分の選んだ食材の選び方が偏っていたり、少々間違っていると、長い期間をかけた結果として、生活習慣病に取りつかれてしまいます。

1 日に 3 食、365 日で約千回が 1 年間の食事回数です。この回数をみると、自分の体に影響を与えない訳がありません。約千回の食事が、各栄養素、食事の量、食べる時間帯、環境等にバランスの良い食事をとる事が出来れば病気になる割合は確実に少なくなるはずです。

先日『食は現代医療を超えた』という本が出版され、私はこの本の題字を見て感動しました。健康と食べる事の重要性を表わしていると思ったのです。病気になってしまえば医療の問題です。しかし、食べる事は健康な人なら自分が決める事です。「おいしく食べる」事は人生にとって最高の幸せです。自分の体に合ったバランスの良い食生活を実行し、豊かな老後を送りたいものです。

《 合同講義「地方自治体から見た荒川区の明日」を聞いて 》

今年も例年通り、荒川区長西川太一郎氏のお話を拝聴しました。梅雨らしい不安定な天気でしたが、135 名が参加しました。「区長は区民の前で話をする責任がある。従って皆さんの前で話出来るのは名誉な事と思って、今日は来ました」とにこやかに講演が始まりました。何時ものように絶好調。参加者は区長の世界に引き込まれていきます。講演の内容を簡単にご報告します。

① ハーバード大学の心理学者 エレン・ランガー氏著書「老いに負けない為に」から。ランガー氏は 4 万人を調査し次のような結論を導き出したそうです。年齢を 20 歳戻して生きてみよう と提案。20 年前の自分の生活のテンポや考え方で生きてみる。すると、気遣いを持って人と接することができ、長生き出来る。それは幸せにつながる。

②荒川区はリサイクル事業に力を入れている。区民は物を大切にすることを伝統として残している。ベトナム・マレーシア・インドネシアなど東南アジア諸国にリサイクルの方法を提供している。

③荒川区の若い課長の提案で、公園の中に介護施設や保育園を創る。高齢者に優しく、また待機児童を減らし、若いお母さんが仕事を続けられる環境を作る。

④ジェネリック医薬品の利用を国に提案している。それによって薬剤費が節約でき、1 億円の医療費が削減できる。

区長さんの区政に対する熱い想いが伝わった 1 時間でした。荒川区民であることを誇らしく思いました。荒川区が更に住み心地の良い町になりますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。 (広報部 井口)

投稿欄

《 気功野外教室 》

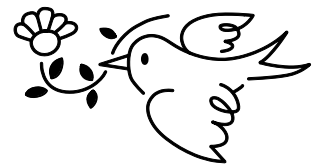
気功教室は、原幸代先生を迎えて十周年になりました。

5 月 18 日、荒川自然公園で野外教室をしました。

バラの花に囲まれて、新緑の木の下で、天地自然の気を身体いっぱいに取りこみました。50 数名の参加で香功をしました。ラーチャーとやっているうちに手のしびれを覚えたとき喜びの声もありました。

気功を十年以上継続した方々に先生からお花等をいただいて、みんなに拍手をしていただいて、本当に良かったと思いました。

今年度は午前と午後の教室が一体となり、夕やけ小やけひろば館の広い会場で練功が出来て嬉しく思います。健康で心豊かな毎日を送れるのも、荒川シルバー大学に在籍しているお蔭と感謝しています。(気功教室代表 中澤 玉枝)



今年は戦後も 70 年になります。終戦記念日を迎えるにあたって、以前在校生に書いていただいた「昭和の記録」より数編掲載します。

「昭和の記録」より

《 戦争は地獄、平和に感謝 》

私は満州の大連で生まれ育ちました。大連は自由港で物資も豊富で物価も安く気候にも恵まれ、最高に住みよく幸せな毎日でした。でも日本の敗戦と同時に生活は一変しました。

戦争中は一度の空襲も受けず守られましたが、終戦後は中国人やシベリアから入って来るロシア人におびやかされ、強姦という恐ろしい思いに悩まされ、妹と逃げ惑った嫌な思い出が残っております。

縁あって主人と結婚し、昭和 22 年 1 月に男子が誕生し、2 か月足らずに日本に引揚が決まりました。元気で引揚船に乗った小さい我が子が、急性肺炎をおこし佐世保に着くと同時に息をひきとり、遺骨を持って千葉に帰りました。

あれ程元気でいた幼い我が子、戦争さえなければ、戦争のお蔭で有望な青年たちがどれ程、尊い命をおとした事か、もう二度と悲惨な戦争は絶対反対です。

子孫の為にも世界の平和を祈っている毎日です。

(平成 22 年 9 月 記 32 班 布施 博子)

《 戦火増々激しく 》

戦火が増々激しくなり、玉川線沿線の家がタンクでどんどん壊されていきました。懐剣を胸に一人東京に残る技術者だった父の為、叱られながらおばさん達に混じって木切れを沢山拾い集め、台所の床下いっぱいにして疎開しました。炭をつける時の薪（たきぎ）に大助かりしていると、福島 of 祖母の家に平仮名のハガキが届きました。

真っ暗闇の山中、桶を持って道に迷っている夢を見てよくうなされましたが、後になって妹が生まれる日が近いための産湯に使う桶と分かりました。

終戦から数日後、妹が誕生しました。

小学校一年二学期に東京へ、学校は殆ど焼失し、三部授業でした。教科書は先生から借りてやっと工面した藁半紙に、母が書き写したものでした。

朝早く起きて煙草を買う為に長い行列に並び、学校に間に合うように母と交代。長女の私は下校すると、サツマイモの配給を取りに行ったり、パン券を手によくお使いをしました。

皆当時はよくお使いをし、弟達を連れ、面倒をみながらの遊びに一生懸命の時代でした。当時の私の年齢は 6～8 歳位でした。

(平成 22 年 7 月 記 44 班 熊川 京子)

暑い夏がやってきました。夏バテを予防するお料理をご紹介します

料理教室講師 立川 禮子

ナスのゴマ味噌だれかけ

材料（2人分） ナス4個 だし汁3カップ 醤油大さじ2 酒大さじ1.5
味噌だれ用調味料 { ねりゴマ大さじ1 味噌（薄い色）大さじ1.5
 { だし汁大さじ1～2

- ① ナスはへたを取り、茶せん状に切れ目を入れ、水に5分位さらす
- ② 鍋にだし汁とナスを入れ強火で煮立たせ、落とし蓋をして弱火で10分煮る
調味料を入れて10分煮る
- ③ 味噌だれ用調味料をよく練り合わせて、ゴマ味噌だれを作る
- ④ 器にナスを汁ごと盛りつけ、上に味噌だれをかける

平成27年度 荒川区大太鼓盆踊り大会について

期日：9月5日（土） 時間：午後6時～9時

会場：荒川遊園運動場

※雨天の場合は翌6日（日）に順延



◆◆◆ 学 園 日 誌 （7月） ◆◆◆

1日	7月役員会・常任理事会 (旅行・学園祭など)	24日	講師会
22日	広報部・企画会議	26日	シルバーだより 302号作成
		29日	8月役員会・常任理事会

※ 事務局だより ※

1. 学園祭について：10月23日～25日（金土日）の3日間です。
会場：ムーブ町屋 3階及び4階ギャラリー
9月以降、各教室は展示作品や発表の準備等宜しくお願い致します。
2. 8月の変更教室について
・英語教室：21日（金）の講義はございません。（7/24へ変更済）

◎8月は事務所も夏休みです。印刷等御用の方は下記の期日にどうぞ！

24日（月）以降 月曜～金曜：9時30分～16時
（事務所）TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691
（メールアドレス）arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp
（ホームページアドレス）arakawa-silver.com/



室長・田原



シルバーだより

No. 303

平成 27 年 9 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

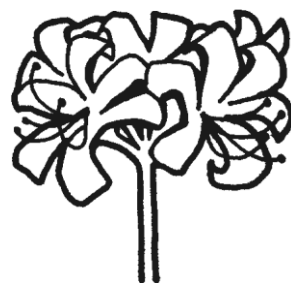
— 好奇心に乾杯 —

理事長 岡田芳子

「シルバーだより」が創刊から今年の 6 月 1 日で 300 号に達しました。シルバー大学で学ぶ学生はほとんど昭和生まれです（大正生まれの学生ももちろんいます）。昭和生まれの学生が平成の時代を見つめ、喜びや悲しみの経験を生かし記事を充実させています。学校全体のことを知るのに最も適しています。じっくり読んでほしいと思っています。

ところで、前回の役員会で、「皆さんの家に届く一般紙の号数をご覧になったことはありますか」と質問しました。

- ① 朝刊と夕刊の号数は同じですか、違いますか。
- ② 夕刊がお休みの時は、次の日の夕刊の号数はどうなりますか。



と話しかけ、正解は今日の新聞を見て下さい。と正解は申しませんでした。

教室代表の方や班長さんたちが「役員会で理事長さんがこんな話をされました。でも正解は言いませんでした」と話題になったようです。私は、好奇心を持たれた学生の皆さんに脳に刺激を与えられたとうれしくなりました。ところがです。それからしばらくして町で私を呼び止めた学生が「それで正解はどうなんですか。私は夕刊をとっていないので比べられません」と。ずっとおもちゃやしていたことが分かりました。「正解は 9 月号のシルバーだよりで書きます」と、伝えました。

正解は、

- ① 朝刊も夕刊も号数は同じです。
- ② 夕刊がお休みでも朝刊が届けられているので、みなし号となりいつも朝夕刊号は同じ号です。

我が家に届く新聞での事で、5 万部を超えています。他紙もこの前後でしょう。

これからもシルバー大学で楽しく学び、興味・関心の輪を広げて下さい。暑い夏をのりこえた御身を大切にしましょう。

今月も先月号に引き続き、「昭和の記録」より一編掲載します。

《 ソ連捕虜収容所の辛かった思い出 》

満州牡丹江東寧県にある兵器補給庫に勤めていた私は、昭和 20 年 8 月 9 日の早暁、追われ追われて 6 日間の逃避行の末、辿り着いた処が朝鮮国境に近い延吉であった。

そこで私は軍属仲間と共に延吉駐屯の二八部隊に収容され、父と妻は家族仲間と近くのキリスト教の教会に収容された。

ソ連軍の捕虜となった私はおよそ一千人の兵隊に混じってソ連領に入り貨車で北へ北へと向かう。幾日かして大きな川辺に着いた。アムール河か？貨車はそのまま船に乗り入れて対岸に着く。コムソモリスクと云う街で、すぐにビヤニーと云う地名のコロニー（ロシア語で収容所）に収容された。昔女優の岡田嘉子が恋人と樺太からソ連に逃避行した辺りか？



いよいよ辛苦辛苦の 4 年に亘る抑留生活が始まるのである。シベリア抑留については多くの人の記述によりよく知られているが、4 年間の生活の中で最も辛かった作業の事を書いてみよう。

その作業は、川幅 1 キロメートルか 2 キロメートルのアムール河？に鉄道を敷くのである。我々日本人には、川に鉄道など思いも寄らないのだが、9 月に列車ごと船で運ばれた川へ鉄道を敷くわけで流石はシベリアだと思った。

凍結した時期 12 月の末頃、2 名の看守兵に守られた数百名の捕虜が川辺に到着。早速作業にかかるのだが、気温はマイナス 30 度位か、まつ毛が凍り付いて目が開かなくなり鼻や頬が感覚を失ってしまう。

川はただ一面の白い氷の岩石がごろごろしている荒野だ。陸地と違って風をさえぎる物もないし遮蔽物も無い川の真っ只中では、吹き荒れる風によって体感温度はマイナス 40 度より下がっている。氷の厚さは 1 メートル位ある。作業はまず氷の岩を取り除いて平らに均すことから始める。そして平らになった氷の上に枕木を並べて行く。測量班から OK がでると、穴を開けてあった氷の下の水をバケツで汲み上げる。その水を枕木の下にぶちまける。途端に枕木は盤石となりビクともしなくなる。その上にレールを敷いてゆく。これがアムール河の鉄路施設だ。そして列車が陸地と結んだ川の上を氷が緩み出す頃まで走り続ける訳だ。

やがて 3 月になると時期をみて、レールや枕木が撤去され連絡船が運航されるのである。

この作業の辛さは、厳しい寒さと、どんなに疲れていても腰を下ろす場所も無ければ、身体を休める事も出来ない事。又痩せこけた身体で氷を割る鶴嘴（工具）の重い事。たまに休憩があっても足の指が凍傷になる恐れがあるから、足踏みをしていなければならない。

やがて昼近く、コロニーから待ちに待った昼食が大きなビヤ樽にカーシャ（おじや）をいっぱいに入れて運ばれてきた。「作業やめ！」の声に、待ち焦がれた食事である。捕虜たち全員唯々空腹に耐えかねての、食いたい食いたいの毎日であった。

一個分隊 15 名位が、各自腰に下げている蜜柑やパイナップルの空き缶を氷の上に並べる。当番が柄杓で茶碗に一杯位のカーシャを注いでゆく。15 個を注ぎ終わって自分の缶を取って食べる頃には、早くも上の方は凍り始めているのだ。こうして足踏みをしながら喰うカーシャの旨いこと。だが量がたりないのだ。そして最後の一滴を舐めようとしても凍り付いていて、舌では取れなくなるほどだ。

この様な寒さの作業中、州のお偉方の視察がありガバジル（監督）が大きな声で叱責されていた様だったが、間もなく作業止めの号令が掛かる。全員大喜びだ。疲れと冷え切った身体をいつときも早くコロニーに帰って暖かい部屋で休みたいからだ。後で知ったのだが、捕虜を使役する時の温度が零下 30 度以下になると、作業をさせてはならない規則があるとかで、コロニーへ帰されたのである。

さて、嬉しい帰りだが、四列縦隊になって、顔を刺す吹雪の中を重い足を引き摺りながら、左右の人の顔を見ての行進だ。隣の人鼻が白くローソクのように変わっていくのが解る。本人は感覚が無いらしいが、此れが凍傷の初めの症状だ。少しでも白く見えたなら、本人に鼻がやられていると知らせる。本人は慌てて防寒手袋で激しくこする。若しこれを怠って、白くなった儘暖かい部屋に入れば、凍傷の第一歩になるのである。

こうして 4 年に及ぶ辛く苦しい、伐採、鉄路、道路建設、煉瓦作り、その他多くの作業に耐え、懐かしい故国に帰って来たのは、昭和 24 年の秋であった。



（ 平成 17 年 9 月 記 元自分史教室 加藤 袈裟一 現在 98 歳 ）

訃報

日本の話芸・絵手紙 B 教室の塚田義介講師が、8 月 2 日逝去されました。平成 18 年からおよそ 10 年。学芸会での発表は、参加者を楽しませてくれ、日頃の授業がどれほど充実していたかを感じさせてくれました。大きな身体と柔和なお姿が今もなお見えるようです。悲しい事です。

天国で、日本の話芸の講師としてご活躍くだされば、と願う気持ちでいっぱいです。
(広報委員会)

9 月 の 行 事 予 定 ♪

期 日	行 事	プログラム
30 日 (水)	<u>合 同 講 義</u> 兼杉三枝子 秋のコンサート ピアノ：代島きよ子	独唱：浜千鳥・モーツァルトの 子守唄・オペラ「ルサルカ」より 月に寄す歌他 独奏：月光他
会場：ムーブ町屋 三階 ムーブホール 開演 14 時		

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (8 月) ◆◆◆◆◆

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| (7/29) 8 月常任理事会・役員会
(学園祭の件他) | 13 日 陶芸教室 28 年度日程作成
(教室清掃業務に関して要) |
| 7 日 社協 福祉団体運営助成
に伴う書類提出 | 17 日 学園祭共催依頼書提出 |
| 13 日 学園祭お茶席・茶菓子券準備 | 19 日 広報委員会 |
| | 25 日 シルバーだより 303 号作成 |

※事務局だより※



① 9 月 2 日、台湾台北市より 30 名の訪問あり

生涯学習に携わる 30 名の先生方が台湾より来日し、午後 4 時過ぎより音楽教室・書道金曜の授業を参観していただきます。

小林敦子教育委員長のご推薦によります。

② 9 月の変更教室：書道金曜教室は 2 日、4 日、18 日となります。

音楽教室は 2 日、5 日、19 日となります。

(メールアドレス) arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp

(ホームページアドレス) arakawa-silver.com/

(事務所) T E L 03-3801-5740 F A X 03-3801-5691

室長・田原



シルバーだより

No. 304

平成 27 年 10 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— 学園祭を成功させましょう —

学 長 望月 公子

記録的な猛暑に引き続き延々と降り続いた台風がらみの秋雨前線がやっと終わりました。この異常気象は、今年に限ったものではなく毎年似たような災害を引き起こしそうで心配ですね。しかし、世界有数の堤防技術を持つ日本ですからしっかりとした対策が取られることを期待すると同時に、現地の復旧が 1 日も早く完了することを願います。

10 月 23・24・25 日は「ムーブ町屋」で学園祭が行われます。昨年に引き続き 25 教室、約 800 名が出品する規模です。荒川シルバー大学前期の学習成果が展示されますので家族・友人にも声をかけ学園祭を盛り上げてください。内容は、伝統文化、芸術、家政、社会行動、映像など多岐にわたっており幅広く鑑賞の楽しみを味わうことができます。



昨年度は、どの教室の作品も生き生きと華やかで個性が出ていることが印象的でした。しっかりと生きてきた経験に支えられ、自信に裏打ちされた強さを感じさせる作品が多く、「色の組み合わせ方が個性的ですね！！」「私にも創れるかしら？」「来年は、この教室に申し込むわ」と会話が弾んでいました。

参加される皆さんには、今年も教科の特性を基に個性とエネルギーに満ちた作品が展示されることを楽しみにしています。

シルバー大学では、新しい試みとして「ジョギング・ウォーキングの集い」を 11 月 7 日（土）に計画しました。後日計画書を事務室前に掲出しますので関心のある学生は、申し込んでください。

9 月 30 日には、合同講義音楽鑑賞会がありドイツから帰国した荒川区出身の声楽家、兼杉三枝子さんを迎え楽しい一時を過ごしました。

また、9 月 2 日には、台湾の大学院生や生涯学習研究者約 40 名が、音楽教室・書道（金曜）教室の授業参観に来られました。交流風景や交流作品などが学園祭に紹介されることと思いますので楽しみにしててください。

《 塚田先生を偲んで 》

「みなさん今日は」教室を始める時の柔らかいあの声が聞けなくなりました。私達の塚田先生が8月2日に亡くなられたのです。二学期に入る前のことで、私達はまさかという思いで受け入れることができませんでした。私達の教室は現在は27名ですが、過去の在籍者は相当な学生の人数だった。なのになぜ一番最初に先生が逝ってしまったのでしょうか。せめて少しの間だけでもお別れの、そしてお礼の挨拶がしたかったという思いが学生全員にあるのです。

誰とでも仲良くなれる塚田先生は、私達の友達みたいでした。教室では常に私達の自主性を重んじた授業に徹して下さっていました。《日本の話芸》という以上、落語、講談、浪曲と沢山の芸能をマスターするために大変なご苦勞をされて調べ、講義の度にキャスターいっぱい資料を積んで、埼玉の遠くから学校まで通ってきて下さいました。先生は日本の芸能は何でも好きですが、とりわけ浪曲と相撲が大好きでした。今年度の合同講義は「天中軒轟師」を招いての浪曲会に全力を上げて取り組まれ大成功をおさめました。あの世に行くのにこんな手土産を持っていこうと思っていたのでしょうか。忘年会などで先生には思いっきりうなづいて頂きたかったです。それはもちろん、「一本刀土俵入り」ですね。『日本の話芸教室だより』という教科書を先生は毎回欠かさず作って、それをもとに講義を行っていました。最後となりました6月16日の教科書では、自身の代行のことも書いてありました。私達は気にもとめなかったのですが、今それを見ると先生には予感があったのでしょうか…。

9月1日の二学期の最初の授業には、先生の奥様が来て下さいました。ご丁寧な挨拶が悲しみを増して私達の心に届きました。また理事長諸先生方も言葉をかけて下さいました。とまどって何もできない私達を助け、まとめてくださったこと感謝申し上げます。その話の中でこれからのこともふれていましたが、塚田先生は毎回新年度の最初に年間の講義スケジュールを立て、示して下さいました。今年度もそれに準じて進んでいきます。私達の中には先生の後継者になり得る人もいますが、諸先生方の協力を得て、何よりも『日本の話芸教室』の灯を消さぬようみんなで手を組んでやってまいります。それが先生へのお礼と供養になればと一同思っております。

さて、私達の頭の中の落語国にはこんな世界があります。それは『粗忽長屋』です。その有名なオチを先生に捧げます。長屋の熊さんが死体を抱いてつぶやくセリフです。「抱かれているのは確かに俺なんだが、抱いているのはいったい誰なんだろう…？」人間の大本命題といわれるむつかしいことですが、私達の先生への思いが伝わるのではないのでしょうか。

ご冥福をお祈り申しあげます。合掌 （日本の話芸教室 学生一同）

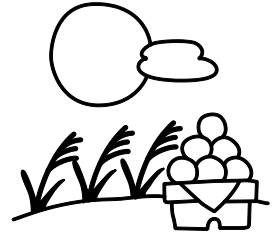
《 朗読教室 》

朗読教室は、池田洋子先生のご指導のもと木曜日、午前クラス・午後クラスに分かれて学習しています。朗読は、ことばを声にして伝えたい作品を聴いて下さる方に届ける、人と人とをつなぐ力だと思います。教室で学んでいる内容は基礎から始まり、音の高低、読む速度、文章の意味を考えながらの間のとり方、他にも色々ありますが、作品を読み進めていくうちに内容の奥深さを常に感じ、又新しい作品に出会える喜びもあります。それぞれが持っている個性を大切にして情熱をかたむけて指導して下さる先生のお姿には、いつも感謝しております。

9月には一番大きな行事でもある学習発表会を行なっておりましたが、今年度はサンパール荒川の大規模な改修工事の為、会場をお借りする事が出来ず発表会を休ませていただきました。教室を離れ作者を訪ねる文学資料館などの日帰り研修も行っています。

昨年度より自主トレーニングの場として「なごみの会」という小さな朗読会も始めました。自分で読みたい作品を選び先生に指導していただいてから発表します。自由参加で限られた時間ですが仲間の朗読を聴くのも良い学習になります。「継続は力なり」のことばのように年齢に関係なく、心身共に健康で楽しい仲間がいる教室、いつ迄も長く続くことを願っています。

(午前クラス代表 辻原 貞子)



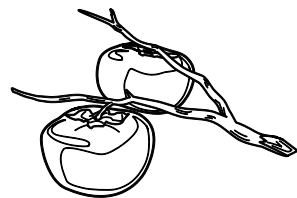
—「マイナンバー制度」が始まります—

荒川区報 8月1日 No.1529 号に掲載されましたので皆様もご覧になったと思います。この制度について調べてみました。

- ① **マイナンバーとはなんだろう？** 日本で住民登録をしている人（外国人も含む）すべての人、一人ひとりに割り振られ通知される 12 桁の番号です。この番号は生涯変わりません。
- ② **自分の番号はどうしてわかるのでしょうか？** 平成 27 年 10 月から、荒川区から現在住民票のあるところへ世帯毎にまとめて「通知書とカードの申請書」が郵送されて来ます。これで確認できます。これを紛失すると再発行は煩雑になります。個人番号カードの申請は任意です。
- ③ **当面どんな時に使うのでしょうか？** 個人番号を申請し交付されるのは、平成 28 年 1 月からです。当面は、税の手続きや、医療保険、雇用保険等の社会保障関係から利用が始まります。 (広報部)

1945 年 7 月 28 日、青森市が大空襲にあいました。焼夷弾にて市街地の 90% が焼失。当時、私は女学校二年生でした。私は青森市より 30km 位離れた浅虫温泉で育ちましたので、青森湾の対岸でした。始め焼夷弾って花火よりきれいだと思います、そんな不遜な考えを恥じました。もちろん学校も焼失。担任の成田先生もご子息共に亡くなりました。

ご子息は中学校で兄の学友でした。女学校全体でも 24 名位亡くなり、私の家の斜向かいの家に昼、爆弾が落とされまして、一軒ぶっとんで大きな穴があき、こわい思いを致しました。あの時青森ってどうしてこんな目に遭ったのか、今でも全然わかりません。



その後の食糧難などなど、戦争って二度と嫌だ、思い出したくない、と常日頃思っ暮らして参りました。

(39 班 後藤 王子)

《 この日も広島は良く晴れていた 》

9 月 14 日、夏の暑さの名残はあるが、広島は空は青く澄み渡っていた。私は初めて広島を訪ねた。今年は戦後 70 年、広島人は「被ばく 70 年」と云うそう。矢張りこの日に対する想いは、広島以外に住む人とは違うようだ。

今回の旅行の目的は、原爆ドームと平和記念資料館を見学することだ。原爆死没者慰霊碑の前では多くの人が手を合わせていた。

私は幸運な事に“ピースボランティア”の品川さんに出会え、ご自身の体験や資料館の沢山の展示品の説明を聞くことが出来た。1 時間の約束が 2 時間に及び、濃密で貴重なひと時となった。資料館は熱線・爆風・放射線に分類して展示され、眼を覆いたくなるような、痛ましい惨劇の爪痕が残されていた。昭和 20 年 8 月 6 日、原子爆弾が投下されたその当時は広島の至る所がこのような惨状だったと思われる。

資料館の窓からオレンジ色の僧衣を纏った団体が、慰霊碑の前で祈っている光景を目にした。タイの方だろうか。原爆搭載機 B29 エノラ・ゲイは機長の母親の名前であり、爆弾のニックネームが「リトル・ボーイ」と呼ばれていた事を知り、広島が焦土と化し、犠牲の甚大との違和感があった。

原爆投下を命じたトルーマン大統領の孫ダニエル氏は 3 年前に広島を訪れ、それ以後は核兵器廃絶の活動をしているそうだ。

広島を発信地として核の反対・戦争反対の運動が世界中に広がり平和な世界になることを改めて祈りました。

(9 班 井口和子)

《 写真教室 》

戸叶先生をお迎えして新設した写真教室は4年目になりました。今年度は男性19名、女性13名のメンバーです。先生の写真仲間の小野田先生が参入され、撮影時には同行して色々のご指導して下さいます。教室では5班に分かれて活動しています。班ごとに班長さんを選出し、相談したり連絡網や野外活動がスムーズに行く様に皆で協力しています。特に教室代表の細田さんには、きめ細かな配慮をして頂いています。

教室では写真上達が主な目的なのは当然ですが皆さん多趣味で、写真も撮影だけでなくメカに関心が有る方、パソコンに精通した方、書や絵、手芸、釣り等々、多彩な特技を持っていて驚くばかりです。

カメラはコンパクト、一眼レフ、ミラーレス一眼があります。カメラによって仕様が異なるので使い方を覚えるのがひと苦勞ですが、同じメーカーのカメラを持っている方に聞いて教わっています。

授業は月2回です。1回は撮影に出かけ1回は教室での学習です。教室では撮影した作品のデータをUSBにコピーして持参し、それをプロジェクターに投影して学習します。プリントにし持参する方もいます。撮影する場所が同じでも其々構図も異なるし被写体も様々です。何を被写体として選ぶのか、光や背景をどうするのか大変勉強になります。スナップ撮影で動きのある物等の作品は刺激を受けます。



今年度は旧古河庭園、小石川植物園、入谷の朝顔祭り、不忍池に撮影に出かけました。先生からのご指導で撮影の基本は、ブレ無い写真を撮る事、良い被写体を見つけたら1枚だけでなく光の具合を見たり背景に注意しながら前後左右に動いたり、時には上下にカメラを動かして撮る様にとの事ですが、中々思い通りにいきません。行動中に会話する中でヒントや情報を得る事もあります。今、10月の学園祭に向けて作品作製に取り組んでいます。これからも多くの人との繋がりを大切にすると共に楽しく学びたいと思います。

(写真教室 伊ヶ崎 元子)

10月の行事予定

28～30 日 (水木金)	<u>秋の研修旅行</u> 錦秋の裏磐梯と岳温泉の旅:「陽日の郷あづま館」宿泊 Tel. 0243-24-2211
--------------------------	--



10 月 23～25 日 (金土日)	学 園 祭 展示：①23 日/ 13 時半～17 時、②24 日/ 9 時～17 時、 ③ 25 日/ 9 時～15 時まで ※お茶席：24 日/10 時～16 時 (受付は 14 時まで) 会場：ムーブ町屋 3 階・4 階
--------------------------	--

学園祭設営等に関する注意点

- 22 日(木) 学園祭前日 午後 2 時～4 時 30 分 搬入可能。(4 階へ)
- 23 日(金) 各教室作品の展示準備は、午前 9 時 30 分～11 時 30 分。
その後、華道教室の生花を展示。
午後 1 時より学園祭「開会式」。会場：3 階 ムーブホール。
- 24 日(土) お茶席は 24 日のみ。
- 25 日(日) 午後 3 時より「閉会式」。会場：3 階 ムーブホール。終了後、片付け。

※ムーブ町屋の方が展示のお手伝いをして下さいます。高い場所や力仕事はお願いして下さい。くれぐれもケガのないように、よろしくお願い致します。

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (9 月) ◆◆◆◆◆

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 2 日 常任理事会・役員会
(学園祭他・お茶席券発売開始) | 18 日 学園祭ポスター掲示依頼
(荒川都電営業所にて) |
| 2 日 台湾より 40 名(授業参観に) | 24 日 広報委員会 |
| 11 日 合同講義打合せ(ムーブ町屋) | 30 日 合同講義(秋のコンサート) |
| 12 日 学園祭打合せ(ムーブ町屋) | 30 日 シルバーだより 304 号作成 |

※事務局だより※

① 11 月の公開教室のお知らせ

11 月に限り各教室の授業をどなたでも見学できます。来年度の申込の参考になさってください。

② 「楽しいウォーキング・ジョギングの集い」について

期日：11 月 7 日(土) 場所：都立舎人公園

参加費：400 円(当日集金) 定員：30 名

※申込み方法等、詳細は募集案内参照のこと

事務所 TEL3801-5740 FAX3801-5691

(ホームページ) <http://www.arakawa-silver.com/>

(mail アドレス) arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp



室長 田原



シルバーだより

No. 305

平成 27 年 11 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— 秋たけなわ —

副学長 木村 國子

秋、最も美しい季節を迎えた。寒暖の差が激しかったせいか、今年の紅葉は、一段と綺麗に色付いている様に思われる。

10 月は、上旬、中旬、下旬と数回に渡り写真撮影を兼ねて美しい紅葉を楽しむことが出来た。10 月上旬の長野県白駒池は、池の周りのドウダンツツジが真っ赤に色付き迎えてくれた。中旬に訪れた蓼科は、林の中で赤や黄色に化粧した蔦漆(つたうるし)がよい被写体になって楽しませてくれた。

下旬は、谷川岳、一の倉沢。全山まさに錦の衣に包まれて、雪渓を抱く谷の姿と融合し、圧倒される美しさ、迫力だった！この様な秋の風景は、日本の誇れる美観の一つだろう。つくづく日本に生まれてよかったと思えるひと時であった。また、遠くに出向かずとも味わえる秋の贈物は、身近に色々あるだろう。



秋といえば、紅葉だけでなく、楽しめることは沢山ある。暑からず寒からず気持ちの良い清涼な空気に包まれ、読書、スポーツにも最適な季節だ。

今話題の本、前に一度読んだ本、気になる本等、この機会に紐解いてみるのもよいだろう。私も最近、古い本だが「怒りの葡萄」(スタインベック著)を読む機会があったが、今の時代と比較し、重ね合わせながら読み、学ぶことが多々あった。最近では、新聞に載る小説も読みごたえのある物がある。

芸術の面でも秋は実り多い。シルバー大学の学園祭は、シルバー大学の生徒一人一人の表現活動、学びの集大成として誇れるものであり、多くの方々に観ていただき、励ましていただいた。「なんと素晴らしい出来栄え」という作品に出会うのも嬉しい。しかし、「一生懸命の姿」がじいんと伝わってくる作品との出会いはもっと嬉しい。皆さんも多くの作品と対峙して、様々な思いがあったことだろう。

来観の皆様には厚くお礼を申し上げますと共に、この励ましが、これから益々意欲ある学びにつながることを願っている。

《 吟行記 》

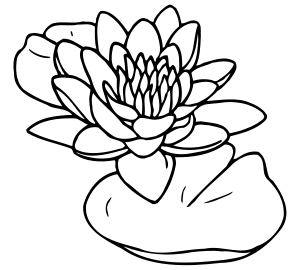
今回の俳句教室の吟行地は、小石川後樂園でした。6月10日午前10時に集合して、都心にこのような場所が残されていることに驚きつつ入園しました。

園内は、山、川、谷、池などのある回遊式庭園になっており、木々が鬱蒼として昼なお暗く、石畳を登ると、時代を逆戻りした別世界にいる様な心地がしました。古を偲びながら暫し想像力を働かせ歩みを進めると、池には水蓮が咲き、アメンボや蜻蛉、そして亀の甲羅干しと様々な生物が見られ、時間が止まった様な長閑な時を刻んでいました。また、花々には蝶、木々には鳥と豊かな自然に感動しました。菖蒲池では花菖蒲が満開で、昨日生まれたばかりというカルガモの子七羽が、親の後を追って動き回る様子がとても可愛らしく、絵になるような光景で、間近に見ることが出来て楽しかったです。

初夏の日差しの中、このような世界に足を踏み入れることができ、さてどのような句を作ろうか、どのように作れるのかとわくわくしながら、色々な思いを持ち帰りました。

帰りには、近く中華料理店で、親睦を兼ねて安くて美味しいランチを共にしました。また秋にも吟行会が予定されているので、どのような所へ行けるのか楽しみです。

ここに吟行句をご紹介します。



睡蓮やビルの谷間で緊と咲く
早逝の母へ問ひつつ梅漬ける
母親に抱かれ軽鴨の子見る夢は
緑陰の延段を踏み江戸時代
円月橋静寂の池に蓮浮き葉
花菖蒲パリコレモデル並ぶかに
昼の闇小川清しき濃紫陽花
鷹の碑に出会ふ歩道の青葉闇
軽鴨の親子を守る花菖蒲
白南風に雲の動きの軽やかに
善きことを集めて今朝の牡丹かな
軽鴨の子の親のひと声まわれ右
透きとほる川の小路に南吹く
後樂園蛩通ひ路遺されて

まさよ
芽衣
スミ子
霜月
源一
恒
美津江
朋子
知恵子
信
悦
とう子
恭子
京

(俳句教室 熊崎 知恵子)

《 レジェンド塚田先生へ 》

「アジャラカモクレンキューライス、テケレッツノパツ」これは落語の名作《死神》のなかの死神退散の呪文です。私やこれを唱えて、先生にこちらにきてもらいたかった、ホントに。布団に寝る間もあまりない逝き方してくれたんで、とりついた死神に消えてもらうこの手はダメでしたね。でもこうなる前にこの手がありましたよ。そうです、寄り合いの最初にみんなで唱えるアレ。

「寿限無、寿限無…………長久命の長助」先生の名前をこれに改名すればよかった。今年の学芸会に先生が作ったお面をかぶって下手な踊りを見せたのは私でしたが、やっぱり先生がかぶった方が当然長生きしてくれたはず。



ところで私たちの教室はいつも寄り合い場、先生はここでは“大家さん”他はご隠居さん、八つつあん、熊さんなどがいて“浮世床”さながら和気あいあいすごさせてくれました。

先生は私より一つ上ですが同学年でした。いま私には分かり合える人は数少ないです。塚田先生はその分かり合えるかけがない人だったことに今ごろ気づきました。私は先生に頼まれるままに色々なことを手伝いさせてもらいましたが、私の方から先生のなかに入っていかなかったような気がします。もっともっと友だちになりたいのなら分かってもらいたいのなら、物理面だけでなく健康面、心理面なども分かってやらなければだめでした。いまさら悔やんでも仕方ありませんが一。

最後に、世の中こんな進んだ世界になったのだから～伝説の男、塚田先生！あの世からは是非発信してください！（私たちはメル友でしたね）なにしろ、あなたと私の間は、ぜったい『ツーカーだっ』 受信 OK です！

（日本の話芸長屋 月番 鷺坂 善孝）

《 夕日は何故赤い？ 》

水彩画教室講師 遠藤みつひさ

今まで青かった空が夕方に赤く見えるのはどうしてだろう？と考えたことがありますか。

太陽光線は波(波長)を打って地球に届きます。太陽光の赤色は波長が長く、青色の波長は短くなります。短い波長の青は空気中のチリで散乱されやすく、長い波長の赤はチリの隙間を通り抜けて遠くまで届きます。

地球で考えると、昼間の真上の空の空気の厚さと、夕方の地平線の彼方までの空気の厚さは夕方の方がはるかに厚いため、青色は遠くで反射し目まで届かず、厚い空気の層を通り抜けてきた赤色が、私たちの近くに来てからチリで散

乱されるため、空が赤く見えるのです。

童謡の「夕焼け小焼け…」の世界が味気なくなりますが、この理屈を応用したのが「空気遠近法」で、風景画の遠近感を表現するために景色が遠くへ行くほど青っぽく、かつ薄くしていく方法として利用されています。

さらに、「色彩遠近法」という色の違いによる距離感の錯覚を利用した遠近法があります。室内などそれほど広くない所でも、赤と青二つのものが同じ距離にあった場合、「赤系統」の物は前進色と言うように、見た目に近くに感じるし、「青系統」の物は後退色と言うように遠くに感じるので、この理屈を利用して手前の物を赤系統にして、奥の壁などを青系統にすると色彩によって遠近感が強調されます。

シルバーだより 301 号に載せた《隻眼の剣豪》の中で、「放射遠近法」について記述しましたので参考にして下さい。「遠近法」ともう一つ「光と影」、絵画を鑑賞する時はこの事を思い出していただくと有意義な鑑賞となるでしょう。

・・・11月の教室授業一般公開のお知らせ・・・

11月に限り、各教室の授業をどなたでも見学できます。来年度の申込の参考にしてください。但し、日程・会場に変更のある場合がありますので、事前に事務局にお問い合わせの上ご見学ください。 事務所 ☎3801-5740

◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (10 月) ◆◆◆◆

7 日	常任理事会・役員会 (学園祭・研修旅行他)	23-25 日	学園祭 ムーブ町屋 3・4F
		25 日	都電ポスター取り外し(有志)
12 日	都電ポスター貼り(広報部)	28-30 日	研修旅行(福島の旅)
21 日	広報部編集会議	29 日	シルバーだより 305 号作成

※ 事務局だより ※

1. 学園祭お互いにごくろうさまでした。会場は熱気にあふれ、多くのご来場の皆様から、たくさんの称賛の言葉をいただきました。来年もがんばりましょう。
2. 11月の教室変更のお知らせ
英語教室：13日(金曜日)のみとなります。
(27日分は1/15に変更となります。)
(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691
(メールアドレス) arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp



室長・田原



シルバーだより

No. 306

平成 27 年 12 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— あれ、もう十二月 —

名誉学長 原田 治子

戦後 70 年の節目の年も間もなく終わろうとしています。世界に目をやれば、宗教や民族の対立、主義主張の違い、利害や憎悪による紛争は絶えることなく続いています。愚かな争いがどれほど多くの生命を奪い、悲惨な生活を強いていることか。心が痛みます。

では、私たちの国日本はどうでしょうか。政治・経済への懸念や度重なる災害・事故・事件などに、怒りや悲しみや落胆することは多々あるけれど、現時点では「平和な国」と言えるのではないのでしょうか。

私たちが荒川シルバー大学生として学び、よき友を得て心豊かに暮せるのも平和であるからでしょう。

永久に武器とは無縁の国でありますように。

カレンダーを破ると残りはたった一枚。

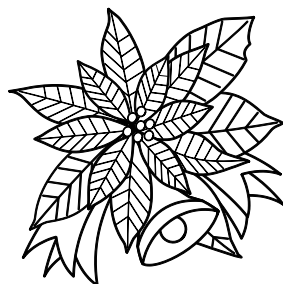
「あれ、もう 12 月」と、何となく気ぜわしくなると同時に様々な思いが去来します。物理的な時間の経過

は万人に等しいけれど、各々の環境や置かれた状況によって感じ方は異なるでしょう。幸せいっぱいであつという間に過ぎた。病いや悲しみで長くつらい日々だった。今が一番幸せなので時計の針が止まってもらいたかった。老々介護に明け暮れて先のことが不安な毎日を過ごした。平々凡々と暮してその日その日を送った、等々。みなさんにとってはどんな年だったのでしょうか。

間もなく一年の終わりを告げる除夜の鐘。

人間の心身を煩わせる妄念（貪・瞋・痴・慢・疑…）を除去するといわれている百八の鐘の音にみなさんは何を託すのでしょうか。私は「人間が幸福であるかどうかは、人生の最後をみるまでわからない。老々家族の中で、負い切れないほどの重荷を負っているけれど、落ち込むことなく、本当のことが聴ける耳、本当のことが観られる目を育てながら、ていねいに歩みをすすめたい」と。

やがて来る夕暮れを思い悩んでも意味はありません。確かなのは「今生きている」ということです。どんなに小さくてもいい。自分にも他者にも幸せの種を蒔き続けていきましょう。



《 研修旅行に参加して 》

去る10月28日より、2泊3日を要し、福島県岳温泉へ、バス2台、参加者総勢70名。錦秋の裏磐梯を満喫しつつ、今回は、東日本大震災の震災学習と福島県の観光支援を目的とした意義ある企画でした。多くの方々が、テレビや新聞のニュースでしか知り得なかった震災当時、一瞬にして家族や家一切を失われた体験者のお話や資料等に触れ、改めて震災の恐ろしさ、悲惨さを目の当たりにし、何とも忍び難い思いでした。

東北でも特に福島は放射能汚染の影響で、他の地域より復興が5年も遅れているそうです。参加された方、皆さんも同じ思いで、観光支援（買い物、寄付等）をしておりました。一日も早く復興が進むことを祈るばかりです。



さて、話は前後しますが、二晩共に宴会は、ぶっつけ本番の歌や踊りがあり、原田治子名誉学長はじめ、先生方も一緒になって盛り上がり協力してくれました。特に望月公子学長の、飛び入りの即興の踊りには、満場が大爆笑でした。

私たちが普段なかなか見られない、先生方、役員さん達のウラ？の顔に触れ、距離感がなくなり心より嬉しく思いました。私は初めての参加でしたが、先輩達のあたたかいお心に触れ、一段と交流を深められ、荒川シルバー大学ならではの有意義な旅でした。最後になりましたが、実行委員の方々の陰の労力に感謝して紙面を終わります。

（ 5班 丸橋 浩子 ）

《 学園祭を終えて 》

パステル・絵の具画講師 永井 克己

年度始めの5月から学園祭に向けて、一人ひとりの個性を生かした作品作りに取り組んできました。テーマや技法は、各自で決めることにしたので、風景画・人物画・静物画・パステル画・水彩画など、多岐にわたり個性的な作品が出来上がりました。

パステルは、オイルパステル、ソフトパステル、ハードパステル、パステル鉛筆など色々な種類があります。生徒さんは、その特性を生かしながら工夫して、自分らしい作品作りが出来たと思います。

10月は、台面に飾る立体作品を軽量粘土で作りました。軽量粘土は、成形や彩色が自由に出来るので、草花やカラフルな置物など楽しみながら制作が出来たようです。

今後は、この学園祭の経験を基に、個性豊かで魅力的な講座を目指したいと思っています。

《 自分史教室の講師となって 》

自分史教室講師 野口 和歌子

自分史教室前講師であり現名誉学長である原田治子先生は、今年 6 月発行の記念すべき『シルバーだより 300 号』の巻頭言で、シルバー大学は質の向上によって「わが誇れるシルバー大学」になるのであり、そのためには次の 3 つの要素が不可欠であるとおっしゃっている。

- ①みんなが学校の運営に関心を持ち、建設的な意見を寄せること。
- ②自分さえよければではなく、共に学ぶ人たちのいたみや悲しみに寄り添い、助け合うこと。

- ③みんなの力で「心あたたまる人間風景そのもの」の学校を育てていくこと。

本年度原田先生より担当講師を任せられた自分史教室は、まさに上記②と③が具現化されたもので、毎回「心温まる人間風景」の中に身を置いて幸せを実感している。この教室の基盤には「感謝の心」「笑顔」「おもいやり」「助け合い」「他の幸福を願う心」「不屈」がしっかり築かれており、学友それぞれが、歴史あるそれぞれの人生を肯定し応援している。そしてその上で、認め合い・励まし合い・高め合う学びの心が熱く躍動している。

「人生の午後」という言葉を原田先生はよくお使いになるが、自分史教室には、「人生の午後」までに蓄えた膨大なエネルギーを糧にして、初心や苦しい時を忘れることなく、これからの人生を、周りの人を大切にしながらさらにより良く心豊かに、しっかりと生きようとする朝の活気が満ちあふれている。

私も教室のある日には、自分史教室の皆さまの学びや生き方を手本にして、「人は皆、人生の中でたくさんのおかげがあって今日という日がある」（原田治子先生）ことにしみじみと思いを馳せ、故人となった父母・姉の恩、そして大恩人や親友や沢山の教え子達の愛を思い起こし、これからの人生の日々を「報恩感謝」と「見果てぬ夢への挑戦」そして足元からの「一日一善」の日々として新たに築いていこうという決意を確かなものになっている。自分史教室の講師にさせて頂いたことに、心から御礼を申し上げたい。

《 「楽しいウォーキング・ジョギングの集い」 ご報告 》

担当 パソコン教室講師 望月 利一

11 月 7 日（土）、都立舎人公園で開催された「楽しいウォーキング・ジョギングの集い」は、岡田理事長・望月学長はじめ、当日参加も含め、約 20 名の方が参加されました。天気も運動をするのにちょうど良い気候でした。

簡単なストレッチの後、ウォーキングの基本動作を確認し、一周約 700 メー

トルのコースを、ゆっくり歩きました。体が慣れてきたところで、スロージョギングを行いました。

途中から、ウォーキングのグループ、ジョギングのグループの二つのグループに分かれました。

ウォーキングのグループは、休み休み、途中で少しスロージョギングを入れながらコースを5～6周しました。

ジョギングのグループは、少ない人数ではありましたが、この日、サポーターを務めて下さった、陸上競技協会の磯田雅也さんと、元気に走りました。



終了後、また、このような機会をもてたらよいという声を耳にしています。
「第2回」の集いが実現できたらよいと思っています。

～～ これから寒くなる時期にぴったりの温かいお料理をご紹介します ～～

料理教室講師 立川 禮子

ふわふわ卵とじ汁

材料（4人分） だし汁カップ2 玉ねぎ中1個 麩40g 卵2個

さとう小1 しょうゆ大3 みつば(又は万能ネギ)5・6本

- ① 玉ねぎは半分に切り薄い輪切り、みつばは3cm位に切る
- ② だし汁にさとう小1、しょうゆ大3を入れて玉ねぎを煮る
- ③ 麩を入れてかきまぜ、弱火にしてふたをする
- ④ 麩が汁をすって煮えたら味をみて、卵を溶いてまわし入れ、みつばを入れて軽くかためる

※ 食べる時、麩が熱いので、やけどしないように気を付けて下さい

◆◆◆◆◆ 11月の学園日誌 ◆◆◆◆◆

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 4日 常任理事会・役員会 | 18日 広報部編集会議 |
| (学園祭・研修旅行 反省他) | 20日 28年度年間日程申請(センターへ) |
| 11日 区・功労賞表彰式 | 26日 シルバーだより 306号作成 |

※ 事務局だより ※

荒川区功労者表彰について：推薦団体として本年度ご推薦致しました講師 稲川君江先生・石塚美江子さん・佐藤ひでさん・金久保芳夫さんが「荒川区功労者」として11月11日に表彰式が行われました。おめでとうございます。

(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691

ホームページ：<http://www.arakawa-silver.com>

室長・田原



シルバーだより

No. 307

平成 28 年 1 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田 芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

— 年の初めに —

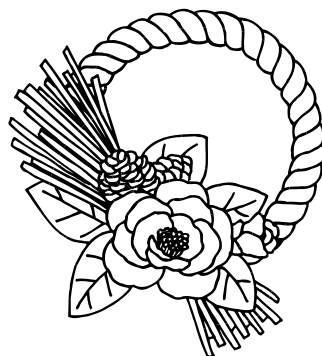
理事長 岡田 芳子

明けましておめでとうございます。

「見ざる 言わざる 聞かざる」とよく言われますが、このことが大切な場合と反対にそうでない場合もあります。よく見、言い方を工夫し、人の意見をよく聞き、知らないことを知る喜びにしていく年でありたいと思います。

さて、「一年の計は元旦にあり」と言われますが、皆様はどんな計画を立てましたか。今さら計画なんてと、おっしゃらず、“今日一日に感謝してくらし、一人以上の人と話をする”ことでも計画だと思います。

実は私、昨年漢字練習をしようと思い漢字検定本を買いました。初めは五級位から始めようかなと思いましたが、小学一年生になったつもりで十級から始めることにし、九級と十級の本を買って求め、一月一日から一日 2～3 ページずつすると決めて三日ぼらずでした。



その本があるので、今年再挑戦を始めたのです。

内容は小学校一年生程度と想像してください。

ところが結構おもしろいのです。“へえー”、ということがあるのです。思い出すことが出来ないこともあります。今年九級まで終わったら大成功です。九級はまた来年ということがないようにここに書きました。笑わないで下さい。応援して下さい。

ところで、そろそろ二十八年度の受講生受付が始まります。同じ教室に入っ
て楽しもうか、違う教室に入って新しいことを学ぶか、どちらも挑戦です。

シルバー大学は、荒川区在住か在勤が条件ですが、荒川区に永年住み学校に
在学していたけれど諸事情で区外に越された場合、もう区民でないからやめな
くはないということはありません。どうか学び続けて下さい。

皆様にとりまして、今年も学び知る喜びを得、友と語る楽しい時間を共有す
る年にして下さることを年頭にあたり願っております。

◎今年も良い年になりますよう、役員一同頑張りますのでよろしくお願いします。

平成27年度 役 員 一 覧

荒川シルバー大学

常任理事	理 事 長	岡田 芳子	名誉学長	原田 治子	事務局室長	田原 弘子
	学 長	望月 公子	副 学 長	木村 國子		
	副理事長	後藤八重子	宮澤 健一	(講師)石崎 恵子		
	事務局長	瀧澤百合子	東日暮里地区長	山岸 知子		
	副事務局長	山口 俊章	西日暮里地区長	畠山 英子		
常任理事	会計部長	江川 芳江	南千住 地区長	伊東千代子	書 記 (講師)	立川 禮子
	会 計	岩崎 芳民	荒 川 地区長	藤原 晃	企 画 部 (講師)	高橋 建司
	会 計	雨宮マサ子	町 屋 地区長	滝口 和彦	企 画 部	嶋戸由美子
			東尾久 地区長	後藤 王子	厚 生 部	尾島ゆう子
			西尾久 地区長	石塚美江子	広報部長	高山 順子
常任理事					広 報 部 (講師)	水越 絹代
					広 報 部	井口 和子
					施 設 部	高橋 武三

相 談 役 (講師) 稲川 君江				会計監査 新井 義三		中田 恭子	
理 事	地区・班長	1. 山口 俊章	12. 鶴岡 恵子	23. 入山 勝子	34. 山泉 昭子	45. 石塚美江子	
		2. 藤田 静江	13. 中島 英子	24. 竹内 陽子	35. 布川 春江	46. 石山つめよ	
	東日暮里 1～7	3. 石川 波江	14. 石井みよ子	25. 吉田百合子	36. 橋 ハツミ	47. 岡田 正規	
	西日暮里 8～13	4. 佐藤 啓子	15. 高木 信子	26. 佐藤 康子	37. 石井 久子	地区・副班長	
	南千住 14～21	5. 太田諏訪子	16. 庭野 美枝	27. 佐藤 ひで	38. 今井智枝子		
	荒 川 22～29	6. 尾島ゆう子	17. 大工原仁子	28. 藤原 公子	39. 後藤 王子	28. 山田 紀子	
	町 屋 30～35	7. 竹内 静子	18. 小林 敏子	29. 西野喜美代	40. 中村美妙子	29. 清水 仁美	
	東尾久 36～41	8. 松澤 芳子	19. 小磯 教子	30. 松本 光章	41. 篠崎 節江	32. 森 秀太郎	
	西尾久 42～47	9. 田畑 一枝	20. 土肥 絹江	31. 松田 和子	42. 小島富美子	34. 徳岡喜代子	
		10. 阿部 成子	21. 武田 咲	32. 滝口 和彦	43. 新井 義三	39. 山崎すい子	
	11. 西澤 節子	22. 酒井 倫夫	33. 足立 房子	44. 高田 敏江			

理 事	(月)	硬 筆	27. 佐藤 ひで	(木)	絵手紙 A	29. 宮向井芳江
	教室代表	水彩画・午前	29. 西野喜美代	教室代表	絵手紙 B	31. 松田 和子
		水彩画・午後	28. 藤原 晃		おしゃれニット木曜	4. 柳原 雅子
		水 墨 画	23. 矢ヶ部昭彦		華 道	43. 押江マサヨ
		パソコン基礎	5. 井上与志乃		健康体操	9. 増山美代子
		フラ・ダンス	19. 小磯 教子		俳 句	2. 佐藤 芽衣
		気 功	46. 中沢 玉枝		朗 読・午前	16. 辻原 貞子
	(火)	歌声クラブ	22. 渋谷 一子		朗 読・午後	20. 榎本 節子
	教室代表	自 分 史	26. 井上 雄視		輪踊り民舞	9. 丸田 陽子
		書道・火曜	1. 山口 俊章	(金)	楽しい源氏物語	44. 村山 義博
		陶 芸	28. 竹内ゆみ子	教室代表	今と昔の町歩き	35. 布川 春江
理 事		日本の話芸	47. 鷺坂 善孝		英 語	33. 濱 妙子
		パソコン応用 I	14. 木村 栄		おしゃれニット金曜	13. 五十嵐睦子
		パソコン応用 II	34. 山泉 昭子		茶 道	12. 津山 良子
	(水)	頭の体操	34. 関 夏子		書 道・金曜	22. 茂木けさ子
	教室代表	絵本と伝承遊び	22. 塩崎美津江		パステル・絵の具画	5. 太田諏訪子
		自然と小さな旅	17. 伊東千代子			
		社会科見学	29. 高橋 武三	(土)	音 楽	30. 松本 光章
		写 真	23. 細田 金義	教室代表		
		料 理	26. 佐藤 康子			
	管 理		28. 金久保芳夫			

役 員 職 務 分 担						
事務局	室 長	田原 弘子	局 長	瀧澤百合子	副 局 長	山口 俊章
	事務局員	管 理	金久保芳夫	岩崎 芳民		
		接 待	阿部 成子	榎本 節子	増山美代子	
総務部	部 長	副 部 長			地 区 長	
	瀧澤 百合子	山口 俊章	(講師)立川 禮子		東日暮里	山岸 知子
	宮澤 健一	(講師)石崎 恵子	(講師)高橋 建司	嶋戸由美子	西日暮里	畠山 英子
	後藤 八重子	畠山 英子	尾島ゆう子	後藤 王子	南 千 住	伊東千代子
	藤原 晃	金久保芳夫	岩崎 芳民	高橋 武三	荒 川	藤原 晃
企画部	高 山 順子	(講師)水越 絹代	井口 和子		町 屋	滝口 和彦
					東 尾 久	後藤 王子
					西 尾 久	石塚美江子



平成 27 年度は荒川区より 社会教育功劳賞を 4 名の方が頂きました

相談役・自然と小さな旅教室講師 稲川 君江

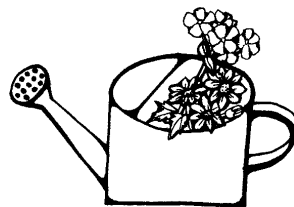
この度、荒川区長より功劳賞をいただく事が出来ました。私は今年で定年退職をして 20 年がたち「傘寿」のめでたい年でもありました。そんな矢先に功劳賞をいただく事が出来、大変ありがたい事でもあり、嬉しい事でもありました。

荒川区では小学校の教諭として管理職として二十余年をつとめました。その後シルバー大学に「自然と小さな旅」教室の講師として 13 年間、その間学長として 4 年間つとめました。幸いな事に荒川区には 30 年前にはこのシルバー大学が誕生し、高齢者の大きな支えとなっておりました。生徒数・教室数も年毎に増え続けました。在籍している学生は自ら学ぶ教科を選択し、学ぶ事が多く連日の様に学校に通っている学生の方も少なくありません。生き生きと学ぶ楽しさを味わい自分の老後の生活を謳歌している姿は最高の人生と思います。

私は 13 年間「自然と小さな旅」教室で、毎月学生と共に自然の変化や草花の風情を愛でる楽しみは何にも勝る喜びでした。

私はこのすばらしいシルバー大学の学校経営・教室経営にかかわり学生の生き生きとした人生の歩みのお手伝いが出来た事に大きな誇りを感じます。

この度の受賞を機に自分の健康が許す限り人との温かいかわりを一層保ちながら、豊かな人生を歩んで参る所存でございます。



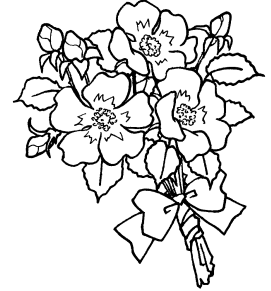
西尾久地区長 石塚 美江子

この度は思いもかけずこのような立派な賞を頂きましたこと、シルバー大学の皆様に深く御礼申し上げます。

シルバー大学に入学致しまして 24 年余り、その間両親の介護で外出もままならぬ時期もありましたが、シルバー大学の授業があるということが支えとなり、デイサービスやショートステイ等、周りの方々の応援も頂き、勉強にも参加することが出来ました。また、教室や地区の仕事も出来ました。

これからも体調に留意して元気で、勉学やシルバー大学の発展に頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

11月11日、前日迄の雨模様が、うその様に素晴らしい快晴に恵まれました。菊の花薫る小春日和の中、私は代表として荒川区長西川太一郎様より社会教育功労賞を頂き、感激もひとしおでした。受賞者は全部で133名でした。受賞された方々は、それぞれの部所で長年にわたり立派な活動をされた方々であり、本当に頭の下がる思いでした。それに比べて私が受賞してもよいのだろうかと考えました。



表彰式に続き、祝宴の会が開催されました。芸大生によるバンド演奏や三味線兄弟の演奏を聴き大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。西川区長様を囲んでのスナップ写真もよい思い出になりました。

お忙しい中、シルバー大学の岡田理事長、望月学長、木村副学長、硬筆の野口講師、事務局の田原室長、瀧澤事務局長などの皆様にもご出席頂きました。

多くの仲間の皆様にも励まされ支えられてきました。感謝申し上げます。

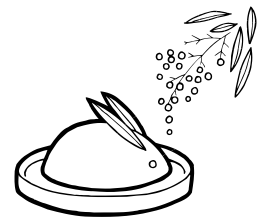
この様な場所に私達を推薦して下さいました岡田理事長はじめ皆様に心より厚く御礼申し上げるとともに、私の生涯でこんな素晴らしい時を与えて下さった先生方に報いる為にも、これからのシルバー大学発展の為に少しでもお役に立つ事が出来ればと思っております。本当に有難うございました。

事務局 金久保 芳夫

シルバー大学に入学したのは、音楽を正確に知り歌いたいという思いから音楽教室に入りました。良き師に巡り合い、良き友に出会い、新しい歌、なつかしい歌を教室で歌い、また年1回の学芸会での発表も楽しみでした。

入学して間もなく班長を依頼され、シルバーだよりや資料の配布、行事の受付・集金を行いました。

大学の事務所は当時、水越初代理事長宅に有り、現在の事務所への引っ越し作業で、机などの備品や機器などの設置をした事もよい思い出として残っております。



事務局の作業として、各行事の準備で舞台・客席の机・椅子などの備品の数量と位置の確認を行い、現場での設置を行って来ました。

年間の主要な行事である開講式・閉講式・学園祭・学芸会・合同講義の受付を班長さんをお願いして、その集計をして役員会へ報告していました。

これからも関係部署の方々のご協力を戴き頑張りたいと思っています。

1 月 の 行 事

平成 27 年度 学芸会プログラム

期日：平成 28 年 1 月 29 日（金） 会場：ムーブ町屋 ムーブホール

NO	発 表 時 間	出 演 教室名	内 容
	9：20～ 9：50	ビデオ上映	26 年度学園祭他
1	9：50～ 9：55	開 会 式	挨拶：理事長 岡田芳子
2	10：00～10：30	フラ・ダンス	月の夜・エフリマコ・南国の夜他
3	10：35～11：15	朗 読	小さなみやげ話・母を詩（うた）う
4	11：20～11：55	気 功	香功・医療気功・内養功・保健按摩叩打法
5	12：00～12：30	歌声クラブ	わらべうた・笛吹童子・朝はどこから他
	昼 休 み	ビデオ上映	
6	1：15～ 1：45	輪踊り・民舞	ひばり音頭・河内音頭・火の国太鼓他
7	1：50～ 2：30	英 語	英語の歌・朗読（おむすびころりん）・寸劇
8	2：35～ 3：05	健 康 体 操	ロザリア・おもちゃのチャチャ・麦畑他
9	3：10～ 3：45	日本の話芸	寿限無・浪曲・都路・落語 天狗裁き
10	3：50～ 4：20	音 楽	唱歌でつづる春夏秋冬・花の街・菓子屋横丁他
11	4：25～ 4：35	閉 会 式	挨拶：学長 望月公子

- ・ 演技中の私語は慎みましょう。 ・ 座席はつめてお座り下さい。
- ・ 二つ前の演技が終わりましたら、席を立てて舞台裏の準備室で待機してください。それまでは落ち着いて座席で鑑賞しててください。
- ・ 自分の演技が終わっても、他教室の発表に敬意を払い声援を送りましょう。
- ・ 立ち見・飲食は禁止です。

◆◆◆◆◆ 12 月 の 学 園 日 誌 ◆◆◆◆◆

2 日	常任理事会・役員会	21 日	四役会計会議
14 日	学芸会打ち合わせ(ムーブ町屋)	24 日	28 年度日程の件 (センターとの打合せ)
16 日	広報委員会		
18 日	講師会	25 日	シルバーだより 307 号作成

※ 事務局だより ※

1. 平成28年度受講生募集について

- ◆4教科：①今と昔の町歩き ②自然と小さな旅 ③社会科見学
④(28年度新設) 東京近郊ミニ散歩

受付日：2月5日(金) 時間：午前10時～12時

募集人員がオーバーした場合は抽選となります。

◆4教科以外の募集

受付日：2月8日(月) 時間：午前10時～12時、

午後1時～3時

受付日：2月9日(火)～19日(金) 時間：午後1時～3時

土日祝日はお休み

(申し込み会場について)

生涯学習センター内です。(正面玄関に会場を掲示)

(追加申し込みについて) 追加申し込みの際は、納付済みの「運営費・受講料の領収書」を必ずご持参下さい。(運営費の重複払いのないよう確認するため)
運営費については、いくつ受講されても1年間に¥7000、1回だけです。

(申込用紙について)

「継続申込書」=1月13日より地区役員が受講生宅に配付・・・在校生用
「新入学申込書」=1月より玄関ポスト前に設置・・・・・・新入学生用

2. 平成28年度の開講教室は下記のようになっております。

(月) ◎水彩画・水墨画/ 気功・硬筆・フラダンス

(火) 歌声クラブ・書道火曜・◎陶芸・パソコン応用Ⅰ・応用Ⅱ/
自分史・日本の話芸

(水) 社会科見学・料理 / 頭の体操・折り紙 絵本・自然と小さな旅・写真

(木) 絵手紙A・華道・◎朗読・輪踊り民舞 / 絵手紙B・おしゃれニット木曜・
健康体操・俳句・楽しい源氏物語・東京近郊ミニ散歩

(金) 英語・書道(金曜)・おしゃれニット金曜 / 今と昔の町歩き・茶道・
パステル絵の具画

(土) 音楽 / ※/=午前・午後の時間帯区分 ◎=午前と午後の授業あり

(事務所) TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691

◆年末年始のお休み：12月28日～1月5日◆

ホームページ : <http://www.arakawa-silve.com>



室長・田原



シルバーだより

No. 308

平成 28 年 2 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

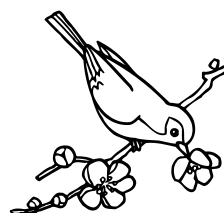
— 笑顔と共に —

相談役・自然と小さな教室講師 稲川 君江

今年はいつもとより早く梅が開花始めました。正月を迎えたのも先日であったように思いますのに、早くも二月を迎えました。年を重ねる程に月日の経過が早いのを実感致します。

さて、私もシルバー大学の「自然と小さな旅教室」を創設して頂き 13 年が経ち傘寿を迎えてしまいました。

シルバー大学では、私が学長の時に、講師には目安的に 80 歳を定年と決めました。80 歳になったら退任しなければならないという事ではありません。80 歳は人生の大きな節目です。私事ですが、この節目が近づいてきた時に知力・体力共に大きく減退して行く事を実感しました。集中力の欠如・記憶力の低下・視力低下・体力減退・目まい等々数え切れません。こんな時期に指導者として続けられるか否かを問い直す事が大切であると考えました。そして私は 10 年前に考えていたように、この先は指導者としてではなく、ゆっくりと老後を過ごしてみたいと決意しました。少し嬉しかった事は「まだまだ元気そうです。続けて下さい」という励ましを頂きました事。力尽きる前に老後を楽しむ余力を残す事も楽しいのではないかと考えました。



人は年老いて人生に余力ができた時に自分の興味のある事を学べるのは大変幸せです。よき学生、よき講師、よき施設等素晴らしい条件をそろえた学習場所を得るのは難しい事です。良い条件をそろえたシルバー大学で永い期間学生さんと共に学び合えた事は本当に幸せな事でした。自分で選んで入っていた教室の皆さんは、誇りを持ち、明るく礼儀正しい方ばかりでした。遠い所へ出かける旅には必ず保険をかけ万一に備えました。しかし、その保険のお世話になった事は一度もありませんでした。

私は旅教室から、ずっとずっと素敵なものを頂いてきました。それは「素敵な笑顔」でした。旅が終わって家路に向かう時、必ずそれぞれが「さようなら」を交わします。その時の笑顔は何にも優る私へのプレゼントでした。シルバー大学の皆さんからいただいた笑顔は、永遠に私の心に生き続ける事でしょう。

《 学園祭の感想 》

副学長・英語教室講師 木村 國子

平成 27 年度学園祭が成功のうちに終わりました。閉会式において、皆様のご苦勞をねぎらいたいと思い、短い時間の中ではほんの一言ずつですが、各展示や発表について感想を述べさせて頂きました。順不同になりますが、ここに再現してみます。

1. 陶 芸 いずれも見事な作品でした。眺めてよし、使ってよしの作品でした。
2. 絵手紙 お亡くなりになった塚田先生への感謝の気持ちが溢れていました。
同じ絵、同じ言葉はなく、個性的で絵に人柄が現れている様でした。
3. おしゃれニット 素晴らしい手編み、手作りの作品に参観者から、「買いたい！」の声も聞かれました。
4. 写 真 ピント、構図、光の捉え方等よく出来ていて感心しました。
5. 硬 筆 字の美しさに魅せられました。この教室で学んだら、自分も美しい字が書けるようになるのでは、と希望を与えてくれます。
6. 自分史 「思い出の写真、好きな言葉」人生何度か立ち止まって、この様なことを考えてみたいものです。
7. 社会科見学 知識、興味、工夫、健康が一杯詰まった発表でした。
8. 料 理 安い食材で美味しく。栄養面もよく考えられているレシピをお土産にいただきました。
9. 自然と小さな旅 毎回周到な下調べの基に計画、実行し、旅を楽しんでいますね。苔玉に心が癒されます。
10. 書 道 圧巻でした。全部は読めずとも格調の高さを感じました。読み方、意味などの注釈を小さな紙に書いて、横に貼ってくれるとありがたいのですが。
11. 水彩画 一枚の絵を仕上げるのに時間がかかることでしょう。
心のゆとりを感じました。構図や色彩が個性的です。
12. 絵本と伝承遊び 紙の芸術、遊び心一杯で楽しめました。来年は是非絵本の感想を区の感想文コンクールに出してみても如何でしょう。
13. 俳 句 短い言葉に豊かな内容が込められ、感性の素晴らしさを感じました。
14. パステル絵の具画 ソフト、ハード、セミハードパステル、水彩、油彩と色々な画材があり、それにより表現が随分違ってくるのに驚きました。
15. 水墨画 シンプルの美しさに魅了されました。
16. 今と昔の町歩き ユニークな企画、訪問先にワクワクしながら行く活動。
良い記念になりますね。



17. パソコン テーマを持って編集。映像とパソコン技術向上により表現の幅が広がっている感想を持ちました。
18. 華 道 控えめに、美しく、会場の雰囲気と和ませ、支える、日本の文化の美と心を見せていただきました。
19. 茶 道 日本の誇る芸術です。心を和ます癒しの場を作ってくれてありがとうございます。
20. 頭の体操 「あいうえお作文」を作っていました。私も、頭の体操の皆さんに習い、頭に、あ、か、さ、た、な、を充てて作ってみましょう。
- ㊤ 明るく ㊦ 感性豊かに ㊧ 爽やかに ㊨ 楽しく ㊩ 仲良く学び続けましょう。
-

平成 28 年度新教室紹介

《「東京近郊ミニ散歩」で楽しく歩きませんか》

担当講師 河合 美津江

私達の住む荒川区には東京で唯一都電荒川線が走っていますが、三ノ輪橋から終点早稲田までは約 1 時間の小旅行となります。都電の停留所で降りると、その地域の名所旧跡を訪ねることもできます。このような、東京近郊を地下鉄や都営バスなどの交通機関を使って巡る、小さな旅を考えています。

月 2 回（第 1、第 2 木曜日）の教室では、

◎第 1 木曜日（13 時～15 時） 見学地の事前学習

◎第 2 木曜日（10 時～12 時） 現地での見学

見学場所に近い駅や公園に集合して、1 回あたり 2～3 時間のミニ散歩も考えています。4 km 程度歩きながら名所旧跡にふれ、見学後解散します。候補地としては「浜離宮と東京タワー」「お台場フジテレビと大観覧車」「月島住吉神社ともんじゃストリート」などを予定しています。



ぶらり歩いて東京の街を再発見できたらいいですね。

参加される方は「東京近郊ミニ散歩」にお申し込みください。

荒川区主催で「戦後 70 年企画」

平和の大切さを伝えるために 戦争体験記録作成講座が開催された。

- ・ 第一回（12 月 17 日）オリエンテーション・思い出を語り合う

荒川区がこの大戦で日本国内で初めて空襲を受けた地区であった事、その被害を受けられた生存者が現時点で2名、その方も参加された。

- ・ 第二回（12月24日）すみだ郷土資料館学芸員 田中禎昭氏を招き、絵で描く個人の記録の作り方について
- ・ 第三回（1月28日）・ 第四回（2月25日）は、記録作成・完成 以上

皆様の戦争の貴重な体験は残さなければ忘れ去られます。是非この機会に記録して下さい。また、私どもシルバー大学でも戦争の記録を残しておりますので、いつでも書かれましたら投稿下さい。お待ちいたしております。（広報部）

◆◆◆ 1月の学園日誌 ◆◆◆

- | | |
|------------------|------------------------|
| 5日 募集関係書類作成 | 20日 3教室 継続申込終了 |
| 13日 常任理事会・役員会 | 21日 ~22日 区民事務所・ふれあい館訪問 |
| 28年度募集要項・継続申込書 | 28年度に向けてあいさつ（理事長） |
| ・新入学申込書・募集ポスター配付 | 26日 シルバーだより308号作成 |
| 17日 広報部 編集会議 | 29日 27年度学芸会「ムーブ町屋」 |

※ 事務局だより ※

1. 平成28年度募集受付期日時間について

① 5日（金）＝午前10：00～正午 申込受付（新規の方のみ）

自然と小さな旅・今と昔の町歩き・社会科見学・

東京近郊ミニ散歩（新設教室）の4科目

② 8日（月）＝午前10：00～正午、午後1：00～3：00 受付

9日～19日（火～金）＝午後1：00～3：00

5日受付の四科目以外のすべての教科

土日祝日休み

◆ 追加申込について：初回の領収書を持参すること。（運営費の重複支払を防ぐ為）

※募集要項をよくお読みになり、申込書にご自分で必要事項をご記入上、
受講料を添えてお申し込みください。

※受付当番の方へ：当日は印鑑《領収書に押印》をご持参ください。

- #### 2. 水彩画教室 第22回発表会のお知らせ 会期：3月1日（火）～7日（月）
- 時間：午前10時～午後6時（初日は午後1時～、最終日は午後3時まで）
会場/ 町屋文化センター ふれあい広場

（事務局）TEL3801-5740 FAX3801-5691

（ホームページ）<http://www.arakawa-silver.com/>

室長：田原



シルバーだより

No. 309

平成 28 年 3 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

理事長 岡田芳子

TEL 3801-5740

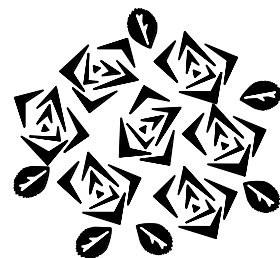
FAX 3801-5691

— 学生が育てた大学 —

学長 望月 公子

学ぶ意欲を持った高齢者が仲間と集い、自ら経営と運営をしている荒川シルバー大学は、日本はおろか世界に類を見ない伝統と特色を持っています。

平成 27 年度は、在校生およそ 900 名、講座数 30、教室数 37 でスタートしました。月 2 回の教室講義の他に、開講式・3 回の全体講義・学園祭・学芸会・二泊三日の研修旅行等、全学生が参加する行事が実施されました。教室によっては、発表会や展示会などを広く地域に向けて発信されました。また、台湾台北市より生涯学習に携わる 30 名の先生方が来日、見学されたことや、荒川区文化事業「戦後 70 年企画」講座への助言を原田名誉学長が務めたこともありました。こうした一年間の学習成果は、高齢化社会の先頭を走っている日本の目指すところであり、シルバー大学の存在は益々重要性が高まると思います。



学校のあらゆる問題は、理事長以下、講師会代表、各地区長、各班長・副班長、各教室代表、事務担当の約 80 名で構成されていて、毎月第 1 水曜日に役員会が開かれ、学生の意見が生かされるようになっていきます。

今年度の閉講式は、卒業期間を 3 年から 5 年に延長した調整年度のため、卒業証書授与式はありませんが、10 年間在籍された奨励賞の学生 33 名の他に、20～29 年間在籍された 34 名の学生を学長賞、30 年間以上在籍された 4 名の学生を理事長賞として表彰する運びとなりました。式場では、一人ひとりに賞状を手渡しますので、学友の皆様の声援をお願いいたします。更に、閉講式終了後、ホテルラングウッドで全学生を対象とした第 1 回「荒川シルバー大学年度末交歓会」を行います。

“有終の美を飾る”という言葉がありますが、3 月は学校にとって締めくくりであると同時に、4 月のスタートへの準備でもあります。荒川シルバー大学は学生が創り学生が育ててきた学生が誇りとする学びの場です。楽しみながら学び、尊敬しあいつつ交流する姿を広げていきましょう。

教室最後の講義がクラスメイトの花の環になりますように！！

1月29日、ムーブホールでの学芸会の開催は初めての事でしたが、皆様いかがでしたでしょうか。感想とアンケートを頂きましたので掲載します。

《 学芸会の感想三編 》

「朗読」みなさん落ち着いて間のある語り口に楽しい時間を共有出来た。

「気功」先生のご指導の下、観客と一体になり気功を楽しんで元気を頂いた。

「歌声クラブ」いつもながら構成が素晴らしい。わらべうた、ヒーローの歌、里の秋等、子供の頃を思い出すひと時でした。

「英語」合唱も楽しませて頂き、朗読も堂々と発表され、チームワークとテンポも良く、映像でも旅を楽しみました。

「健康体操」Tシャツのカラフルな色がリズム感に乗って、最後に会場と一緒に手踊りで元気をもらいました。

「日本の話芸」寿限無では、塚田先生の似顔絵を先頭に皆さん輪になり先生を偲ばれた。浪曲の森の石松の口三味線が面白く、落語の天狗裁きも雰囲気が出ていました。



「音楽」歌声が揃っていて、心が温かくなるような合唱でした。アンコールをお願いしたかった。

「フラダンス」と「輪踊り民舞」は拝見できなく残念でした。

最後に、諸先生のご指導と生徒さんの協調に幸せな時間を頂き有難うございました。又、いつもながら実行委員の皆様には雨の中、お世話様でございました。感謝。
(絵手紙A教室代表 宮向井 芳江)

すばらしかった！

一人一人の頑張り、精進の様子が見てとれ、演技者だけでなく観客の私もすっかり虜になり、「どのクラスにも参加し、あのように舞台に立ってみたい」と、今まで考えたこともない不思議な私が居ました。

最初のフラダンス、若々しく曲にのり優雅に踊る姿に魅了されました。勿論、今迄になかった先生方の踊りはきっと生徒の方々にも良きお手本を観る思いで嬉しかった事でしょうね。話芸の方々、先生不在のもとで練習に励みそして発表と、持ち時間を充分に使われたであろう沢山の演目。いつかどこかで聞き覚えのあるようで、懐かしく聞き入りました。

何と言っても私達年代の一番の課題は健康で過ごすこと。平均寿命がのび、人々は最後迄元気で自分の事がこなせる事を望みます。私は夢ではないと学芸会に行き確信したのです。価値のある楽しい一日でした。

(陶芸教室代表 竹内 ゆみ子)

今年も「健康体操」では、先生をはじめとして生徒も元気に和気あいあいと学芸会へ向けて練習をしていました。

最初は、グループに分かれてどんな風に曲に合った体操を組み立てるか、皆さんのこれまでの経験から豊富な知識を出し合って作り上げました。

選曲は、ロザリア（七色のボール）、アメイジンググレイス（ゴム）、おもちゃのチャチャチャ（鳴子）、さとうきび畑（長く薄い布）、それぞれの曲に合った小道具を使います。直実節（関節体操）、見上げてごらん（会場全体での体操）、6曲の創作体操が出来上がりました。

すべての基本は健康になるために日頃から体調管理には十分に気をつけています。体を動かしていい汗を流し一生懸命に努力をしてきました。学芸会当日は、練習の甲斐がありまして、無事に創作体操を発表することが出来ました。

その他にも、お楽しみ外出授業があります。四季折々の香りに誘われて心の栄養を蓄えております。日々、キラキラと輝いて若返っている教室です。

（ 健康体操教室代表 増山 美代子 ）

《 当日のアンケートより 》

- 皆様の元気いっぱいのパフォーマンスを拝見でき、こちら元気になりました。ありがとうございました。普段のお勉強の実力が発表出来てよかったと思いました。
- 寒い日でしたが、場内は湧き返っていて熱気むんむん。受付では“荒川に友人いますか”なんて言われました。嬉しい。英語特に素晴らしかった。おもてなしの日本は荒川から！荒川の熟年パワー素晴らしい。
- 午前の部見学致しました。日頃の勉強の成果に感心しましたし、自分の励みになりました。
- 英語クラスの一生懸命さが伝わりました。寸劇が良かった。
- 初めて見に来ました。気功、輪踊り、楽しかったです。
- 午後の部を観せていただきました。輪踊りの皆さん、とてもしなやかでお上手でした。健康体操もよかった。特に布が入道雲に見え、青空を感じ、吹く風にさとうきびの葉ずれの音が聞こえるようでした。日本の話芸もとても労作でした。プロでない良さを感じ、とても面白く聴きました。音楽も皆さんおしゃれに真っ赤な花が良く似合い若やいでとても良かった。
- サンパールと違い席の座り方が大変でした。
- 皆さんの元気とやる気をもらいました。準備から片付けまで、ありがとうございました。



《 塚田先生を偲ぶ絵手紙B教室の皆さん 》

・塚田先生ともう一度お楽しみ会を開きたかったです。もう一度先生の楽しいお話と唄を聞きたかったです。 中沢玉枝

・和洋の絵画史・日本の話芸、幅広い世界を教えてくださいました。相撲甚句も。笑顔忘れません。 S. S.

・風貌はドラえもんのジャイアンで、太陽のような笑顔の素敵な先生でした。 H. O.

・在職中、三峽でお会いしたこと、覚えてますか。今度は遠世界で。 H. W.
・教室の始まりにいつもニコニコと熱く講義をされていた姿が脳裏に浮かびます。 中嶋

・塚田先生、絵手紙教室 楽しかったです。 Y. U.

・先生の大きな体から出るお話が楽しかった。 美子

・長葱を書こうと思い、ハガキを横にしても書ききれなかったら、塚田先生が「三枚つないで書いてごらん」と。 松尾

・大きな体をゆらしながら、カバンの中から色々な物が出てきた。「美の巨人」の話を楽しそうにして下さいました。楽しみだった。 和子

・先生が毎回絵画に関するお話をして下さる姿が忘れられません。有難うございました。 丸山

・3月の反省会に、とても楽しそうに演歌を歌っているお姿が思い出されます。

・絵手紙とは何か！さらに高い作品をと願い、参考になるよう、西洋・東洋・現代までの美術史を多々講義して下さいました。先生の教えを胸に、これからも勉強していきたいと思います。 Y. N.

・塚田先生、たくさんの講義をありがとうございました。その中でも私には「大津絵とは何か」ゴッホとユトリロが心に残っています。そして、もう一度相撲甚句が聞きたいです。 T. K.

・大きな体で、いつもニコニコしていて、話し好きの先生でした。 H. Y.

《 東日本大震災を振り返って 》

思い出したくありませんが、風化させてはなりませんので、ペンを執ることにしました。

平成23年3月11日14時46分頃だったと思います。主人と家に居りました時でした。轟音と共にこれまで経験したことのない物凄い揺れがきて



pixta.jp - 16129183

家が潰れると思いました。慌てて外に出ようとしたら歩ける状況ではなく、這って外の芝まで出て心配しながら家を眺めておりました。家は鉄骨造りの頑丈な家でしたが、45度に傾きました。でも倒壊することなくほっとしました。後で聞くとマグニチュード9・2と云うことでした。

主人が「これは大きな津波が来るよ」と言ってから30分後、推定13～14mの津波が押し寄せてきました。私の所から東へ4km離れた海岸にある約700戸の家は全部流されました。死者は140名といわれております。主人の友人も5人が流され帰らぬ人となりました。今思うと、昼間だからこれだけで済んだと思います。これが真夜中だったらと思うとぞっとします。

私達はこの夜は家に寝ました。主人が翌朝海を見に行くと言って玄関を開けた。家の前は114号国道ですが、福島～浪江間の道路が渋滞というよりは全然進まない状態でした。私も外に出てみたら、たまたま主人の友達が通りがかり、「世利ちゃん、何やってんだ。避難しないのか。俺ら家流されて何も無いよ」と言って「早く避難しろ」と言われました。間もなく町の広報車が巡回してきて、「町民の皆さん、早く避難して下さい。足のない人は、町役場からバスが出ますので、役場まで集まるように」との事でしたので、主人と急いで役場まで行きバスに乗りましたが、何で避難するのか、何処に行くのか、全く分からない儘、着の身着のまま出かけました。勿論、夕方には家に帰れるものと思っていた。

最初の避難場所は、町内にある家から4km程離れた小学校の体育館でした。そこで、町の職員に聞いても何も教えてくれないで、どういう事になって居るのか分かりません。昼食はパン一枚に牛乳一本でした。夕方になっても帰れる様子はなく薄暗くなった頃、町の職員に「ここから西へ30km離れた津島へ行くのでバスに乗って下さい」と言われて、言われるが儘バスに乗り津島のコミュニティセンターという所に行きました。築一年とのことですが、70畳の所に100名位の人が入居しました。それはもう缶詰状態で3日間居りました。

(4月号に続く)

(福島県浪江町より避難 34班 安部 世利子)

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 2 月 ◆◆◆◆◆

3日 常任理事会・役員会

17日 広報委員会

5日 27年度募集受付(19日迄)

23日 閉講式打合せ(ムーブ町屋)

31科目 37教室

24日 シルバーだより 309号作成

三月の行事

平成27年度 閉講式・表彰式

日時：平成28年3月18日（金） 午後2時～
会場：ムーブ町屋 3階 ムーブホール

一部

- | | | | |
|---|--------|----|--------|
| 1 | 開式のことば | 7 | 理事長賞授与 |
| 2 | 敬 礼 | | 受賞者謝辞 |
| 3 | 理事長挨拶 | 8 | 感謝状授与 |
| 4 | 学長式辞 | | 受賞者謝辞 |
| 5 | 奨励賞授与 | 9 | 校歌斉唱 |
| | 受賞者謝辞 | 10 | 閉式の言葉 |
| 6 | 学長賞授与 | 11 | 敬 礼 |
| | 受賞者謝辞 | | |

二部

- 1 記念撮影



★年度末交歓会のお知らせ★

平成 27 年度、在校生全員及び講師による交歓会を開催いたします。

日時 平成 28 年 3 月 18 日（金） 17 時 30 分～20 時 （閉講式終了後）

会場 ホテル・ラングウッド（2 階）TEL3803-1335（日暮里駅南口徒歩 1 分）

費用 5, 5 0 0 円 申込締切期日：3 月 4 日（金） 申込先：各教室代表

※教室代表の方にはお世話をおかけ致しますが、ご集金が済み次第申込用紙に現金を添えて事務室までお届け下さいますようお願い致します。

※ 事務局だより ※

1. 平成 28 年度の募集申込み受付について

区の生涯学習課、福祉高齢者課および広報課、生涯学習センター他、皆さんより多大なるご協力をいただき、28 年度の募集受付が無事終了致しました。心より感謝申しあげます。また役員の方々には毎日お手伝い頂きありがとうございました。

2. 受講生二次募集について 各教室若干名の追加募集を致します。

期日：3 月 2 日（水）～4 日（金）（詳細は事務所前に掲示）

時間：午後 1 時～3 時 会場：シルバー大学事務所

3. 講師会について 日時：3 月 14 日（月）午後 1 時より 会場：第一会議室

事務所 TEL3801-5740 FAX3801-5691

ホームページ <http://www.arakawa-silver.com/>

室長：田原